

閉学記念誌

東海大学医療技術短期大学

閉学記念誌

東海大学医療技術短期大学

創立者 松前重義
(1901~1991)



若き日に
汝の思想を培え

若き日に
汝の体軀を養え

若き日に
汝の智能を磨け

若き日に
汝の希望を星につなげ

松前重義書



建学の歌

建学の歌

作詞 松前重長
作曲 信時謙

一、声なく教う富士ヶ岳
海清叱咤す太平洋
三保の松ヶ枝下にして
我等が母校ここにあり

二、磬りは高し鉄舟寺
偲べ古武士の面影と
その殉国の誠とば
先哲の声ここに聞け

三、古き歴史の濁流と
せきて止めて清めてん
思想と科学と技術とに
いそむ健児ここにあり

四、歴史の波の高きとき
なやみの谷の深きとき
追め希望の星仰ぎ
我等が行くここにあり



東海大学医療技術短期大学校歌

東海大学
医療技術短期大学
校歌

作詞 松前重義
作曲 松前紀男

一、清き思いは富士ヶ峰に
暖き心は潮風に
ここ湘南の学舎に
愛と科学のいとをみと
学ぶわれらに誇りあり

二、湧れるこの世を浄めんと
なやめる人々救わんと
高く尊き使命もて
寒さにたえて咲く花の
梅のかおりとたたえなん

三、ああ東海の学舎に
その人道の示すごと
高く尊きたぐいなき
いみじき愛の葉の音に
追われらに榮あり

歴代学長



松前 重義
1974年(昭和49年) 4月 1日～
1977年(昭和52年) 9月30日



笹本 浩
1977年(昭和52年)10月 1日～
1979年(昭和54年)12月14日



佐々木 正五
1979年(昭和54年)12月14日～
1992年(平成 4年) 3月31日



三富 利夫
1992年(平成 4年) 4月 1日～
1997年(平成 9年) 3月31日



玉置 憲一
1997年(平成 9年) 4月 1日～
1999年(平成11年) 3月31日



母里 知之
1999年(平成11年) 4月 1日～
2000年(平成12年) 3月31日
2002年(平成14年) 4月 1日～
2008年(平成20年) 3月31日



谷野 隆三郎
2000年(平成12年) 4月 1日～
2002年(平成14年) 3月31日



灰田 宗孝
2008年(平成20年) 4月 1日～
2019年(平成31年) 3月31日



沓澤 智子
2019年(平成31年) 4月 1日～
2022年(令和 4年) 3月31日

歴代学部長



内田 靖子
1974年(昭和49年) 4月 1日～
1988年(昭和63年) 3月31日



前田 マスヨ
1990年(平成 2年) 4月 1日～
1992年(平成 4年) 3月31日

1. 挨拶

学校法人東海大学総長



ヒューマニズムに根ざした看護師の育成は、これからも不変

学校法人東海大学
総長 松前 達郎

本学園建学の精神的源流であり、また福祉国家としての先進国であるデンマークの看護および看護教育を範とし、東海大学医療技術短期大学は、1974年に開設されました。初代学長には学園の創立者・松前重義が自ら就任していることから、学園としての大きな決意をもっての開学であったことが特筆されます。

爾来、本短期大学ではデンマークの人々の心情、豊かな人間性、「人を愛する心」を看護教育の基軸に据え、「ヒューマニズムに根ざした愛情ある看護」を実践することのできる人材の育成に努めてまいりました。いかに医療設備や技術が発達しようとも、患者側に立脚した医療看護の実践なくしては高度な医学も光も失い、冷たいテクノロジーの巨塔に過ぎなくなってしまう。それだけに、本短期大学の生命尊重の理念は重く、変化の激しい時代にあっても社会からの期待は極めて大きなものでありました。また、閉学に至るまで、常に新しい看護の道を切り開き、特にデンマークでの看護研修は他に類を見ない実績を収めてきました。

しかしながら、将来にわたり18歳人口が減少の一途を辿ると予測されていること、また、四年制大学志向がこれまでも増して強まっていることなどに鑑み、学生募集の停止という厳しい決断に至った次第であります。今後、本短期大学での看護師育成は、東海大学医学部看護学科（伊勢原校舎）に継承され、看護教育の質をより一層充実させていく所存です。

開学から48年にわたり、深い愛情と高い志を持った看護師を育成し、社会に送り出してきた本短期大学が、今年度で幕を閉じます。これまで発展にご尽力をいただいた多くの皆様に心から感謝を申し上げますとともに、社会で活躍されている卒業生の皆様に深い敬意を表します。

創立者・松前重義が掲げた理想のもとに本短期大学が実践してきた看護師の育成は、医学部看護学科に引き継がれていきますが、今後もその看護観は不変であり、時代の要請に応じていくものと確信しております。卒業生の皆様には、これからも高い誇りをもって、より一層の飛躍をされることを心より祈念いたします。



次代に向けた学園の新たな挑戦にご理解を

学校法人東海大学
理事長 松前 義昭

1974年に開学し「温かい看護のできる人間性豊かな看護師を育てる」ことを教育方針として掲げてきた東海大学医療技術短期大学が、48年の歴史に幕を降ろすことになりました。今日まで本短期大学の発展にご尽力を賜りました教職員、ならびに関係各位におかれましては、学園を代表して衷心より御礼を申し上げます。

本学園は建学75周年の節目であった2017年に、学園の総合戦略として「学園マスタープラン」を策定し着実に推進しているところでもあります。この「学園マスタープラン」は、建学の精神のもとに築いてきた学園の歴史と伝統を礎に、学園が求めていく共通の価値、行動指針に沿った目標を共有し、協力し合う体制を堅持していくためのものであり、2042年の建学100周年に向けた、いわば、未来への航海の“羅針盤”となるものです。

外部環境は刻一刻と変化します。今回、本短期大学の歴史に大きな節目をつけたことも、「学園マスタープラン」を抛りどころとして、そうした外部環境の変化に適応し、進化していくための挑戦の一環であることをご理解いただければ幸甚です。

本学園の医学・看護教育は今後、伊勢原校舎を拠点として推進し、医学部の各付属病院との連携のもと、教育・研究の成果を社会に還元しつつ、よりよい地域社会づくりに貢献してまいります。

本短期大学は開学以来、広い視野と高度の専門的学識・技術をもった看護職の育成に取り組んでまいりました。卒業生の皆様にはどうか、ここで学んだことに誇りをもって、これからも力強く人生を歩んでいただきたいと願っております。

本短期大学の関係者の皆様は、これからも本学園の同志であります。また、卒業生の皆様には今後、東海大学同窓会の会員としてご活動いただけると伺っております。引き続き、学園の諸活動にご理解とご協力をお願いするとともに、皆様のますますのご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



閉学にあたって

東海大学医療技術短期大学
学長 沓澤 智子

東海大学医療技術短期大学は、2022年3月をもって閉学することとなりました。本学は、東海大学における医療を医学部とともに支え、発展させるべく、1974年に医学部の開設と時を同じくして開学いたしました。当時の看護師養成機関は、専修学校がほとんどで、医学部附属病院をもつ大学でも4年制大学や短期大学の看護学部・学科は数えるほどしかありませんでした。初代の学長には、東海大学の創立者松前重義博士が就任され、2代目から2002年までは、医学部長または附属病院長が学長に就任されてきました。教育の理念は「生命尊重の人間観、歴史観、世界観の確立による「人間愛」を根底とする看護観を育み、その信念と行動によって人類の平和に貢献できる人材を育成すること」で、「温かい看護のできる人間性豊かな看護師を育てる」を教育の方針としています。開学前から、看護教員によるデンマーク研修を行い、福祉先進国であるデンマークの看護とその教育を範とし、教育理念・教育方針に反映させてきました。デンマークとの関係は、2019年まで相互の学生研修として継続され、今後は医学部看護学科に引き継がれていきます。

本学の卒業生は、2020年度末で5315名（2021年度末で5397名）となり、大多数が東海大学医学部附属病院群に就職しており、長年、附属病院群の医療を支えてまいりました。私は、1979年から医学部附属病院・大磯病院で診療にあたってきましたが、他病院に受診経験のある患者さんから、附属病院の看護師について「温かい対応に感謝している」という感想を聞くことが多く、本学の教育理念が活かされていると実感しております。

本学は、2021年度末で48年の歴史に幕を降ろし、今後の看護基礎教育は医学部看護学科に引き継がれることとなります。本学の卒業生は学び舎がなくなってしまうますが、同期生・同窓生の横と縦のつながりを生かし、今後とも、医学部附属病院群のみならず、様々な保健・医療・福祉の現場で、よりよい看護を提供していただくことを期待しております。

東海大学医療技術短期大学学長付（前学長 2008. 4. 1～2019. 3. 31）



短大である医療技術短期大学の閉学に際して

東海大学医療技術短期大学
学長付 灰田 宗孝

私は 2008 年 4 月、医療技術短期大学の看護学科教授・学長となりました。

2007 年の秋、前学長の母里先生からの電話で、話が始まりました。当時、私は医学部の医学教育情報学の教授で、診療は神経内科の外来を行い、情報システム部長と教育計画部長を兼務していました。また、医療技術短期大学の学長であった母里先生から、教育計画部長である私に、医療技術短期大学への教員派遣の相談を受けていました。母里先生の電話は、来年度、医療技術短期大学の学長にならないかとのお話でした。2009 年 3 月で、医学部を定年退職する事になっており、その 1 年前は、医学部の全ての役職を解かれる事になっていたもので、2008 年 4 月から医療技術短期大学の役職を兼務することには何ら問題はありませんでした。そこで、医療技術短期大学に母里先生を尋ね、具体的内容を伺い、鰻重をご馳走になり、話は決まりました。

医療技術短期大学では、看護師養成が主目的であることから、医学部での教育計画部長の経験はあまり役立たないことに、気づかされました。看護師さんは、医師よりも患者さんとの距離がより近いのです。発想の転換が必要と実感しました。

医療技術短期大学の学長となった時から、東海大学の理事、評議員ともなり、法人の予算会議などにも出席する様になりました。その時、明らかになったのは、医療技術短期大学は慢性的に年 1 億円程度の赤字であったことです。しかし、当時の財務担当理事は、医療技術短期大学の卒業生が高率に東海大学付属病院群に就職することを根拠に、厳しいことは言わずに済ませてくれていました。3 年制の医療技術短期大学の卒業生は看護師にしかありません。そのことが付属病院への高い就職率に繋がっており、また、学生同士の一体感を強めていたと思います。例え、閉学となっても、医療技術短期大学が存在した事実は無くなりません。卒業生の皆様は、医療技術短期大学の卒業生であることを誇りに持って、学生時代に培った絆を生かし、今後の医療の分野でのご活躍を祈っております。

2. 沿革

1974年4月1日 第一看護学科(40KF生)50名、第二看護学科(40KS生)50名定員で、湘南校舎(平塚市)に開学し、同時に医学部が伊勢原校舎(伊勢原市)に開学した。

第一看護学科は高等学校卒業生または卒業見込みの者に受験資格がある3年制のコース、第二看護学科は高等学校卒業生または卒業見込みの者で准看護師の免許所有者または取得見込みの者に受験資格がある2年制のコースであった。

「東海大学医療技術短期大学」という名称は「当面は看護学科だけであるが、近い将来、パラメディカルなどの職種の養成も行う予定がある」という理由からであった。

初代学長である松前重義は本学について、「東海大学はかねてよりの念願であった医学部が発足し、東洋一の付属病院も開院した。しかし、如何に優秀な医師を集め、最新の医療機器を整備しようとも、それをアシストする看護婦の献身的な看護なくしては、病院は心をもたない冷たい科学の殿堂にすぎなくなる。私はかねてより医療の実践における看護婦の存在を強く認識しておったので、医学部および付属病院の発足と時を同じく、看護婦の養成機関である医療技術短期大学を開学した」(『東海大学建学の記』p.89, 1973.)と本学の建学の理念を記述している。

松前重義は『学生便覧(1973)』の巻頭言「人道的で愛情に満ち、使命観に徹した看護職員を」のなかで「東海大学の指向する建学の理念は、物質文明と精神文明の調和による総合文明建設のための人材を養成することにあります。本学はこの理念に基づき、生命尊重の人生観・歴史観・世界観を確立させるとともに、自己の使命を自覚し、広い視野と高度の専門知識をもった医療技術者の養成をめざしています。しかも本学に学ぶ学生は、人道的で愛情に満ち、看護という職責に使命観を持ちうる人でなければいけません」として「人間愛を深め、生命の尊重を基調とするばかりでなく、身体的、精神的、社会的にも健康を保持し、増進に寄与しうる専門職としての看護婦養成に全力を傾け、日本における看護の画期的存在たらんとしている」と本学の建学の理念を記述している。

建物は湘南校舎望星学塾の改築で、1号館はJ館として医学部進学課程・2号館はK館として医療技術短期大学、3号館は女子学塾(寄宿舎)として使用することとなった。

本学は開学1年前から内田靖子初代学部長を中心に、看護教員スタッフによる本学設立に向けて様々な事柄を検討すると同時に東海大学建学の精神を深く理解するためにデンマーク研修を実施した。第1回は1973(昭和48)年11月2日に内田靖子学部長を団長として、第2回は1974年1月11日に井上幸子教授を団長として実施した。この成果は1975年8月の第1回ヨーロッパ研修としてデンマークで学生が研修する道へとつながり、その後デンマーク看護研修となった。2000年には、デンマークオーフス地域看護学校との学術交流協定を締結し、デンマークからの研修団の受入れも開始、相互交流を行っている。

デンマーク看護研修は、学生募集停止の決定を受け、2019年度第45回が最後の研修となったが、本学の伝統ある研修であり、教育の中心的な柱であった。(6. 国際交流 1)デンマークとの交流参照)

また、1991年4月に「東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設」を設立した。佐々木正五施設長は『総合看護研究施設年報第1号(1991)』の巻頭言において、「近年における生物学的技術の急速な発展と、医療に対する社会的期待感の変貌は、看護自体の新しい姿の開発を求めるに至った。」「本学では総合看護研究施設を創立し、時代の流れと学問的要請に答えようとしている。かかる意味からも本施設は閉鎖的であることは許されず、広く学問の発展を願うもので、そのマイルストーンとして年報を刊行する」とし、年報の発刊と研究施設の役割を述べている。

2005年3月には准看護師養成状況の変化に伴い第二看護学科を廃止、2005年4月からは、1学科体制に改編、3年制の第一看護学科を改め、「看護学科」として教育を展開してきた。

そして、2018年3月に開催された学校法人東海大学定例理事会・評議会で決議を受け、2020年度以降の学生募集の停止が決定した。学生募集は順調に推移しているものの、将来にわたり18歳人口が減

少の一途を辿ると予測されていること、また、四年制大学志向がこれまでも増して強まっていることなどに鑑みながら、今後のあり方について議論を重ねた結果、学生募集の停止という決断をしたものであった。開学以来、福祉国家の先進国であるデンマークの看護および看護教育を範として、技術・知識・精神面で調和の取れた人材の養成を教育目標に掲げ、「ヒューマニズムに根差した愛ある看護」を実践することのできる看護師を養成し、閉学までの48年間で卒業生は5,397名となった。卒業生の多くは、東海大学医学部附属4病院（伊勢原・東京・大磯・八王子）をはじめ、国内外の医療機関において活躍し、高い評価を得ている。

医療、看護及び福祉の連携によって社会に貢献する“かなめ”となる看護職は、専門技術の確実な修得とともに、効果的に実践する能力が要求される。本学では、健全な社会の構築に貢献し、深い人間愛と生命の尊厳に基づく人間尊重を貫く専門職としての看護師の育成に全力を傾けてきた。48年間の本学の歩みは、社会貢献の上でも貴重な歴史を刻んできたと言える。

東海大学医療技術短期大学沿革

1974年4月	東海大学医療技術短期大学 第一看護学科・第二看護学科開学 第一看護学科・第二看護学科定員各50名 女子学塾開塾
1975年9月	第1回戴帽式を実施
1976年4月	定員変更 第一看護学科・第二看護学科各80名
1978年11月	第1回飛鷗祭実施
1983年4月	定員変更 第一看護学科100名、第二看護学科50名
1984年4月	教育課程変更 卒業要件単位 第一看護学科105単位以上、第二看護学科70単位以上
1987年9月	第1回東海大学短期大学(部)スポーツ大会を三短大合同で、湘南校舎総合体育館にて実施
1989年5月	東海大学医療技術短期大学建学15周年式典と記念シンポジウムを実施
1990年4月	教育課程変更 卒業要件単位 第一看護学科98単位以上、第二看護学科75単位以上
1991年4月	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設開設
1994年10月	東海大学医療技術短期大学建学20周年記念行事を実施
1996年4月	定員変更 第一看護学科70名
1997年4月	教育課程変更 卒業要件単位 第一看護学科116単位以上、第二看護学科87単位以上
2000年4月	教育課程変更 卒業要件単位 第二看護学科75単位以上
2000年12月	デンマークオーフス地域看護学校との学術交流協定締結
2001年1月	中国牡丹江華日高級中学との留学生受入及び交流に関する協定締結
2001年4月	教育課程変更 卒業要件単位 第一看護学科108単位以上

2001年10月	他の看護系短期大学との相互評価を実施
2004年3月	女子学塾閉塾
2004年4月	第一看護学科 看護学科と名称変更及び定員変更 80名 第二看護学科 募集停止
2005年3月	第二看護学科 廃止
2005年4月	教育課程変更 卒業要件単位 看護学科 105単位以上
2005年10月	東海大学医療技術短期大学建学30周年記念式典を実施
2006年9月	財団法人短期大学基準協会（第三者評価認証機関）による第三者評価受審 結果：適格認定
2009年4月	教育課程変更 卒業要件単位 看護学科 109単位以上
2013年9月	一般財団法人短期大学基準協会（第三者評価認証機関）による第三者評価受審 結果：適格認定
2018年3月	学校法人東海大学定例理事会・評議員会（3月27日）での決議を受け、2020 年度以降の学生募集の停止を決定
2022年3月	東海大学医療技術短期大学 看護学科 閉学

3. 組織運営

本学は、開学当時より、学内に委員会を設置し組織運営を行ってきたが、2013年度に受審した一般財団法人短期大学基準協会（2013年当時の名称）による認証評価（結果「適格」認定）をきっかけとし、大学評価委員会を中心に組織編成の見直しを図った。評価のための評価ではなく、教職員全体で自己点検・評価に取り組む体制を整え、教職員一丸となって取り組むことが重要という考えの下、先に東海大学にて導入していたミッション・シェアリングシート（以下MSシート）を基に内部質保証システムの構築を行った。実施組織を各委員会・部署として具体的な実施目標を定め、PDCAサイクルを意識しながら教育の質の向上に取り組むこととしたのである。

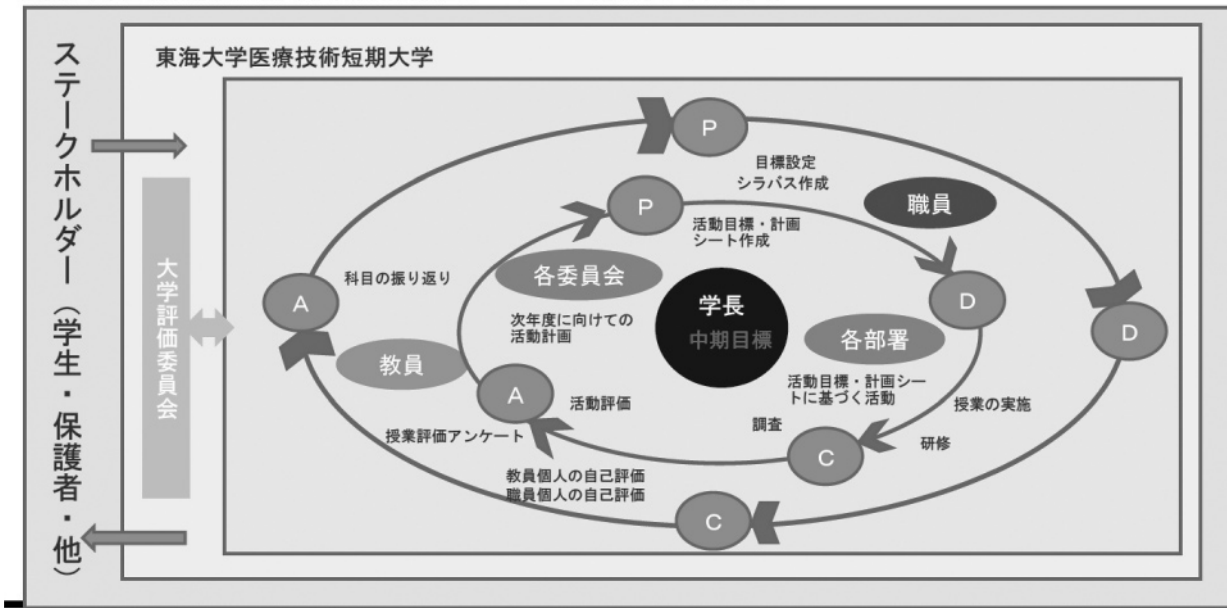
その背景には、戦後の急激な高度経済成長と共に高等教育機関の需要が増し、高等学校卒業生の半数以上が大学へ進学する時代となったこと、一方で、設置認可大学数の増加と18歳人口の減少により、進学先を選ばなければ志願者全員が入学し得る「大学全入時代」、21世紀知識基盤社会に突入し、大学の役割や学士力（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力）の育成が求められるようになったことにある。看護大学としては、人口の少子高齢化が進み、医療や看護が高度化専門化する中で、4年制の看護学部や看護学科の新設が著しく、その数はこの25年間で約20倍に増加していた。看護教育を取り巻く状況も激変し、本学が3年課程の短期大学として看護教育を実践するにあたり、より教育の質が問われるようになったことから組織運営の見直しを行うこととしたのである。

認証評価受審の翌年、2014年度より組織改革に着手した。医療技術短期大学の中期目標及びMSシートを作成し、2015年度を試行期間として、2016年度より3カ年を1サイクルとする中期目標を設定した。具体的に実施するための活用シートとしてMSシートを位置づけ、担当部署・委員会を明確にして、目標達成に向けて改善努力するようにした。その結果、それぞれの委員会・部署がどこに位置づけられ、大学全体としての活動の意義や相互の連携の必要性をMSシートからみることができるというメリットが明確になった。また、大学評価委員会主催の研修会を開催したことで、何故評価が必要なのかということを教職員全員が理解する機運が高まった。

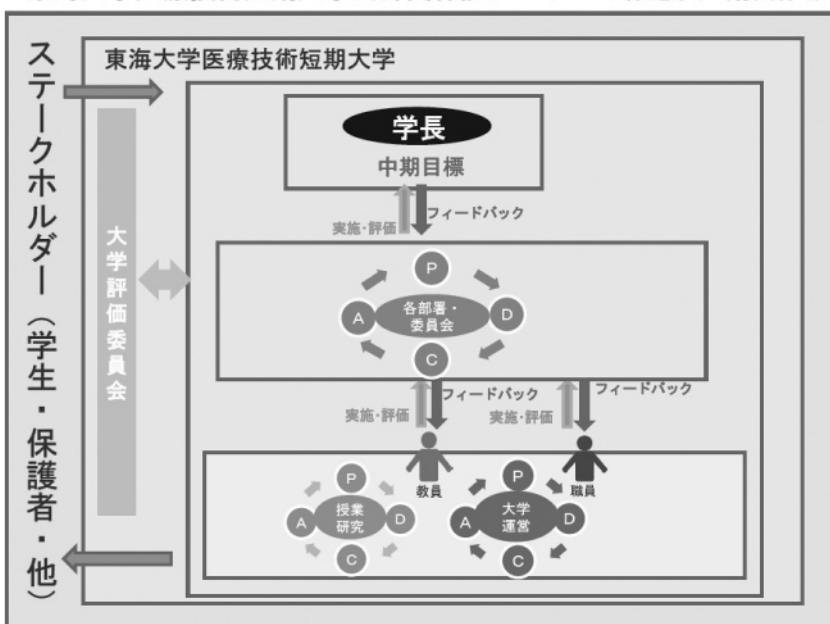
その後も3カ年ごとに中期目標を立て組織運営を行う予定でいたが、2018年3月に2020年度以降の学生募集停止が決定したため、2019年度からは、中期目標（2016年度－2018年度）の評価後、2019年度－2021年度までの3か年について新たに「目標」を定め、閉学まで各委員会・部署の活動を大学運営の主体とし、MSシートを用いた自己点検・評価を行ってきた。

本学は、短期大学として、大学の機能（教育・研究・社会貢献）を向上させるために、組織体制を検討し、閉学に至るまで教職協働による大学運営を遂行したのである。

東海大学医療技術短期大学内部質保証システムの概念図（平面図）



東海大学医療技術短期大学内部質保証システムの概念図（縦断面図）



- 学長**
 <ビジョン・コンセプト>
 ・中期目標の評価・見直し
 ・MSシートの評価・見直し
 ・各委員会・部署評価の評価・フィードバック
 ・3つのポリシーの見直し
 ・大学組織の見直し
 ・内部質保証システムの構築

- 各委員会・部署**
 <具体策の方法策定>
 ・中期目標・MSシートに添った目標の具体化
 ・各委員会・部署での目標達成度が医短の目標達成＝質の向上となるよう設定
 ・部署・委員会の自己点検・評価、フィードバックを受けての改善
 ・個々の教職員の評価・フィードバック
 ・個々の教職員評価から次年度部署の改善

- 各教員・職員**
 <企画・実践>
 ・各委員会・部署の目標に添った個々の目標を設定
 ・科目・教員・職員単位での授業・業務実施
 ・自己評価、他者評価からのフィードバック

4. 教育活動

1) 教育理念・教育目的・教育目標・3つのポリシー

(1) 教育理念

東海大学医療技術短期大学（以下「本学」という）は、建学の精神に基づき、生命尊重の人間観、歴史観、世界観の確立による「人間愛」を根底とする看護観を育み、その信念と行動によって人類の平和に貢献できる人材を育成することを本学の教育理念としています。

教育方針

本学は、1974年開学時に示された創立者松前重義の「温かい看護のできる人間性豊かな看護師を育てる」を教育の方針としています。

(2) 教育目的

教育基本法及び学校教育法に則り、人道に根ざした深い教養を持つ社会人並びに医学医療の進歩に適応する高い専門知識と技術を持ち、生命尊重の人間観、人生観、社会観とその使命感を有する視野の広い医療技術者を育成することを目的とする。

(3) 教育目標

1. 人間愛を深め、生命の尊厳と人間性の尊重を基調とし、調和の取れた社会人としての成長をめざす。
2. 看護に関する理論および技術を学び、看護実践の基礎能力を身につける。
3. 主体的に学修を継続し、問題意識を持って探求する姿勢を身につける。
4. 保健医療福祉における看護の機能と社会的役割を認識する。
5. 保健医療福祉の中で生じる問題を理解し、倫理的に対処する能力を身につける。
6. 関連諸科学を統合して人間理解を深め、看護観の確立をめざす。

(4) 3つのポリシー

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

東海大学の建学の精神および東海大学医療技術短期大学の教育目的、教育目標に則り、本学の課程を修め、幅広い教養を修得し、看護実践能力および下記の力を身につけた者に対し、短期大学士（看護学）の学位を授与いたします。

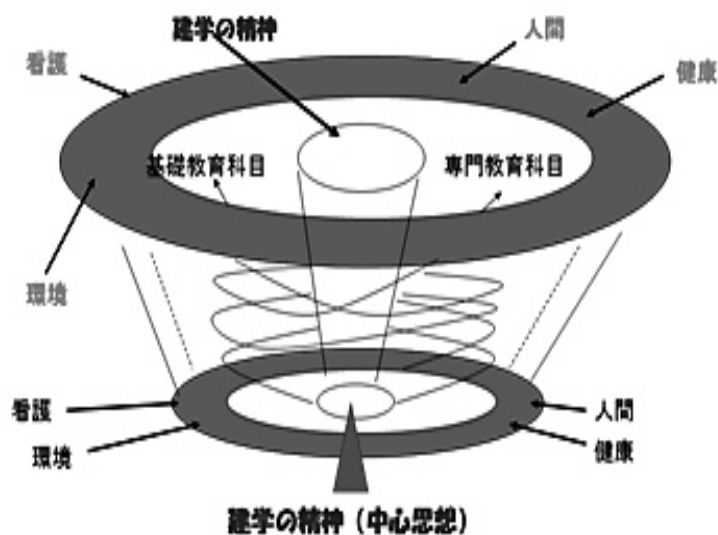
1. 人間の生命と尊厳および権利を尊重した行動がとれる。
2. 自律した一人の人間として、社会や他者へ責任のある行動がとれる。
3. その人らしい生活を整える視点を持つことができる。
4. 科学的根拠に基づいた知識及び技術を用いて、対象にあった看護を計画的に提供できる。
5. 問題意識を持ち、学び続けることができる。
6. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を自覚し、主体的に行動できる。
7. 社会の変化に伴って生じる保健医療福祉の問題に関心をむけ、倫理的課題への感受性を高め、責任ある行動がとれる。
8. 幅広い視点から対象を理解し、経験を統合して自分のめざす看護が述べられる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

東海大学医療技術短期大学では、その教育理念に基づき、教育基本法及び学校教育法に則り、人道に根ざした深い教養を持つ社会人ならびに医学医療の進歩に適応する高い専門知識と技術を持ち、視野の広い医療技術者（看護師）を育成するために以下のようにカリキュラムを編成します。

1. 学園の建学の精神を具体的に学ぶ科目として現代文明論を位置づけ、カリキュラムの中核に据える。
2. 深い教養と広く多様な学習能力を獲得するために、基礎教育科目を位置づける。
3. 専門的な知識・技術を体系的に学ぶために、専門基礎分野から専門分野Ⅰ、Ⅱ、そして統合分野へと段階的に学修できるよう科目を設置する。
4. 主体的に問題意識をもちながら学修できるよう参加型の授業方法を取り入れる。
5. 実習・演習は少人数編成とし、一人ひとりの学生の個性を尊重した教育を実施する。

【カリキュラムデザイン】



アドミッションポリシー (入学者受入れの方針)

1. 本学での学修に対応できる学力を有している者
 - ・文章表現ができる
 - ・論理的思考ができる
2. 学園の建学の精神を理解し、本学の教育理念に共鳴する者
3. 看護に関心があり将来看護師を希望する者
4. 規則正しい生活習慣を心がけている者
5. 他の人に関心を向け、コミュニケーションをとることができる者
6. 自分や他の人を尊重した行動がとれる者
7. 自分を振り返り、自らを成長させようとする者
8. 目標達成のために情熱をもって主体的に学び続ける者
9. 様々な体験から学び、困難に立ち向かう姿勢がある者

2) カリキュラムの変遷

カリキュラム表

1974年度入学～1983年度入学

区分	科目名	単位数	必選別		開講年次			備考	
			第一看護	第二看護	1年	2年	3年		
一般教育科目	人文科学系	現代文明論	4	○	○	●			6単位以上修得
		哲学	4	×	×	●			
		心理学	2	○	○	●			
		芸術論	4	×	×	●			
	社会科学系	社会学	2	○	○		●		6単位以上修得 含保健統計学
		統計学	2	○	○	●			
		教育学	2	○	○		● 二看	● 一看	
	自然科学系	物理学	2	○	○	●			6単位以上修得
		化学	2	○	○	●			
		生物学	2	○	○	●			
		数学	2	×	×	●			
	外国語科目	英語Ⅰ	2	○	○	●			4単位以上修得
英語Ⅱ		2	○	○		●			
英語Ⅲ		2	×	×		● 二看	● 一看		
ドイツ語		2	×	×		●			
保健体育科目	体育講義	1	○	○	●			第一看護 3単位必修 第二看護 2単位以上修得	
	体育実技	2	○		● 一看				
	体育実技	1		○	● 二看				
	体育実技	1		×	● 二看				

○必修科目 ×選択科目

注意) 年度によって開講年次を変更することがある。

卒業単位数

科目		単位数	
		第一看護	第二看護
一般教育	人文	6	6
	社会	6	6
	自然	6	6
	外国語	4	4
	保健体育	3	2
専門		85	56
計		110	80

カリキュラム表

1974年度入学～1983年度入学

区分	科目名	単位数							
		第一看護				第二看護			
		合計	1年	2年	3年	合計	1年	2年	
専門科目	医学概論	2	2			2	2		
	解剖学	2	2			} 2	2		
	生理学	2	2						
	生化学	2	2			2	2		
	薬理学	2	2			2	2		
	病理学	2		2		2	2		
	微生物学	2	2			2	2		
	公衆衛生学	1		1		1	1		
	社会福祉	} 2			2	} 2		2	
	衛生法規								
	看護学総論	看護概論	4	3		1	2	2	
		看護技術	5	2	2	1	3	2	1
		基礎看護実習							
		総合実習	3			3	3		3
		保健学総論	5	4	1		3	3	
	成人看護学	成人看護概論	2	2			1	1	
		内科疾患看護	4.5	1	3.5		3.5	1	2.5
		精神科疾患看護	1		1		1		1
		外科疾患看護	3.5	2	1.5		} 3	1	1
		整形外科疾患看護	1.5		1.5				
		皮膚科疾患看護	} 1		0.5		} 1		0.5
		泌尿器科疾患看護			0.5				0.5
		婦人科疾患看護	1		1		0.5		0.5
		眼科疾患看護	} 1.5		0.5		} 1		} 1
		耳鼻咽喉科疾患看護			0.5				
		歯科疾患看護			0.5				
		成人看護実習	18			18	7		7
	母子看護学	母子看護概論	2	2			2	2	
		小児疾患看護	3		3		1		1
		小児看護実習	3			3	2		2
母性疾患看護		2		2		1		1	
母性看護実習		3			3	2		2	
	保健所等実習	4				4			

※専門科目はすべて必修科目

カリキュラム表

第一看護学科（1984年度入学～1989年度入学）

区分	科目名	開講年次			
		1年	2年	3年	単位
一般教育科目	総合	現代文明論	○		4
	人文科学系	哲学	○		④
		心理学	○		2
		芸術論	○		④
	社会科学系	社会学		○	2
		統計学	○		2
		教育学		○	2
	自然科学系	物理学	○		2
		化学	○		2
		生物学	○		2
		数学	○		②
	外国語科目	英語Ⅰ	○		2
		英語Ⅱ	○		2
英語Ⅲ			○	②	
ドイツ語			○	②	
保健体育科目	体育講義	○		1	
	体育実技Ⅰ	○		1	
	体育実技Ⅱ	○		1	

単位数を○で囲った科目は選択科目

注意) 年度によって開講年次を変更することがある。

卒業単位数

科目		単位数
		第一看護学科
一般教育科目	総合科目	6
	人文科学系	
	社会科学系	6
	自然科学系	6
外国語科目		4
保健体育科目		3
専門科目		80
計		105

カリキュラム表

第一看護学科（1984年度入学～1989年度入学）

区分	科目名	開講年次				
		1年	2年	3年	単位	
基礎科目	医学概論	○			1	
	解剖学	○			2	
	生理学	○			2	
	生化学（栄養学を含む）	○			2	
	薬理学（薬剤学を含む）		○		2	
	病理学		○		2	
	微生物学	○			2	
	公衆衛生学		○		1	
	社会福祉衛生法規Ⅰ		○		1	
	社会福祉衛生法規Ⅱ		○		①	
保健学総論	○			2		
看護学総論	看護概論Ⅰ	○			3	
	看護概論Ⅱ			○	1	
	看護技術Ⅰ	○			2	
	看護技術Ⅱ		○		1	
	基礎看護実習	○	○		2	
	総合実習			○	3	
専門科目	成人看護概論	○			2	
	成人保健	○			1	
	成人疾患	成人疾患Ⅰ		○		14
		成人疾患Ⅱ		○		
		成人疾患Ⅲ		○		
		成人疾患Ⅳ		○		
		成人疾患Ⅴ		○		
	成人看護	成人看護Ⅰ		○		
		成人看護Ⅱ		○		
		成人看護Ⅲ		○		
		成人看護Ⅳ		○		
		成人看護Ⅴ		○		
	成人看護実習	成人看護A			○	18
		成人看護B			○	
成人看護C				○		
成人看護D				○		
成人看護E				○		
小児看護学	小児看護概論	○			1	
	小児保健		○		1	
	小児疾患		○		2	
	小児看護		○		2	
	小児看護実習			○	4	
母性看護学	母性看護概論	○			1	
	母性保健		○		2	
	母性疾患		○		1	
	母性看護		○			
	母性看護実習			○	4	
保健所等実習				○	④	

単位数を○で囲った科目は選択科目

カリキュラム表

第二看護学科（1984年度入学～1989年度入学）

区分	科目名	開講年次			
		1年	2年	単位	
一般教育科目	総合	現代文明論	○		4
	人文科学系	哲学	○		④
		心理学	○		2
		芸術論	○		④
	社会科学系	社会学		○	2
		統計学	○		②
		教育学		○	2
	自然科学系	物理学	○		2
		化学	○		2
		生物学	○		②
		数学	○		②
	外国語科目	英語Ⅰ	○		2
		英語Ⅱ	○		2
		英語Ⅲ		○	①
ドイツ語			○	①	
保健体育科目	体育講義	○		1	
	体育実技	○		1	

単位数を○で囲った科目は選択科目

注意）年度によって開講年次を変更することがある。

卒業単位数

科目		単位数
		第二看護学科
一般教育科目	総合科目	6
	人文科学系	
	社会科学系	4
	自然科学系	4
外国語科目		4
保健体育科目		2
専門科目		50
計		70

カリキュラム表

第二看護学科（1984年度入学～1989年度入学）

区分	科目名	開講年次				
		1年	2年	単位		
専門科目	基礎科目	医学概論	○		1	
		解剖学	○		1	
		生理学	○		1	
		生化学（栄養学を含む）	○		2	
		薬理学（薬剤学を含む）	○		1	
		病理学Ⅰ	○		1	
		病理学Ⅱ		○	①	
		微生物学	○		1	
		公衆衛生学	○		1	
		社会福祉衛生法規Ⅰ	○		1	
		社会福祉衛生法規Ⅱ		○	①	
		保健学総論	○		2	
	看護学総論	看護概論Ⅰ	○		2	
		看護概論Ⅱ		○	1	
		看護技術Ⅰ	○		1	
		看護技術Ⅱ		○	1	
		基礎実習		○	1	
		総合実習	○	○	3	
	成人看護学	成人看護概論	○		1	
		成人保健	○		1	
		成人疾患	成人疾患Ⅰ	○		9
			成人疾患Ⅱ		○	
			成人疾患Ⅲ	○		
			成人疾患Ⅳ		○	
			成人疾患Ⅴ		○	
		成人看護	成人看護Ⅰ		○	9
			成人看護Ⅱ		○	
			成人看護Ⅲ		○	
			成人看護Ⅳ		○	
			成人看護Ⅴ		○	
		成人看護実習	成人看護A		○	8
			成人看護B		○	
	成人看護C			○		
	成人看護D			○		
	小児看護学	小児看護概論	○		1	
		小児保健	○		1	
小児疾患			○	1		
小児看護			○	1		
小児看護実習			○	2		
母性看護学	母性看護概論	○		1		
	母性保健	○		1		
	母性疾患		○	1		
	母性看護		○	1		
	母性看護実習		○	2		
保健所等実習			○	④		

単位数を○で囲った科目は選択科目

科目区分別一覧表

第一看護学科（1990年度入学～1996年度入学）

科目区分	必選別	開講単位数				卒業 単位数	開講時間数				卒業 時間数
		1年	2年	3年	計		1年	2年	3年	計	
一般教育科目	○	4			4	4	60			60	60
	△	24			24	12	360			360	180
外国語科目	○	2	2		4	4	60	60		120	120
	×		4		4	0		120		120	0
保健体育科目	○		2		2	2		60		60	60
専門基礎科目	○	17	1	3	21	21	450	30	75	555	555
専門科目	○	11	17	3	31	31	375	555	75	1005	1005
専門科目 (臨床実習)	○	3	4	17	24	24	135	180	765	1080	1080
自由履修科目	※				8	0					0
合 計		61	30	23	122	98	1440	1005	915	3360	3060

第二看護学科（1990年度入学～1996年度入学）

科目区分	必選別	開講単位数			卒業 単位数	開講時間数			卒業 時間数
		1年	2年	計		1年	2年	計	
一般教育科目	○	4		4	4	60		60	60
	△	24		24	12	360		360	180
外国語科目	○	3	1	4	4	90	30	120	120
	×		2	2	0		60	60	0
保健体育科目	○	2		2	2	60		60	60
専門基礎科目	○	11	4	15	15	270	90	360	360
専門科目	○	13	8	21	21	390	255	645	645
専門科目 (臨床実習)	○	2	15	17	17	90	675	765	765
自由履修科目	※			8	0				0
合 計		59	30	97	75	1320	1110	2430	2190

必選別について

- ：必修科目（必ず修得しなければならない科目）
- △：選択必修科目（指定された方法で選択し、必ず修得しなければならない科目）
- ×
- ※：随意科目（卒業要件に含まれない科目）

注意）授業時間数の開講時期配当は、年度により変更されることがある。

カリキュラム表

第一看護学科（1990年度入学～1996年度入学）

授 業 科 目 名		必 選 別	時 間 数						単 位 数	備 考		
			1 年		2 年		3 年				合 計	
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
一般 教育 科目	総合	現代文明論	○	30	30					60	4	
	人 文 科 学 系 列	哲学	△	30						30	2	2科目4単位以上選択必修
		心理学	△	30						30	2	
		文学	△	30						30	2	
		芸術論	△	30						30	2	
	社 会 科 学 系 列	社会学	△	30						30	2	2科目4単位以上選択必修
		教育学	△	30						30	2	
		統計学	△	30						30	2	
	自 然 科 学 系 列	数学	△	30						30	2	2科目4単位以上選択必修
		物理学	△	30						30	2	
		化学	△	30						30	2	
		生物学	△	30						30	2	
		情報科学	△	30						30	2	
外 国 語 科 目	英語 I	○	30	30					60	2		
	英語 II	○			30				30	1		
	英語 III	○				30			30	1		
	英語 IV	×			30				30	1		
	英語 V	×				30			30	1		
	デンマーク語 I	×			30				30	1		
	デンマーク語 II	×				30			30	1		
保 健 体 育 科 目	体育理論	○			15				15	1		
	体育実技	○			15	30			45	1		

授 業 科 目 名		必 選 別	時 間 数						単 位 数	備 考	
			1 年		2 年		3 年				合 計
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
自 由 履 修 科 目	デンマーク看護研修	※								2	
	海外研修 I	※								2	
	海外研修 II	※								2	
	英語（__大学）	※								2	

カリキュラム表

第一看護学科（1990年度入学～1996年度入学）

授 業 科 目 名	必 選 別	時 間 数						単 位 数	備 考	
		1 年		2 年		3 年				合 計
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
専 門 基 礎 科 目	社会と医療	○	30					30	1	
	人体の発生と構造・機能	○	90	30				120	4	
	代謝と栄養	○	30	30				60	2	
	人体とくすり	○	15	30				45	2	
	病理と治療Ⅰ	○		30				30	1	
	病理と治療Ⅱ	○		45				45	2	
	感染と防禦	○	45					45	2	
	生活と保健	○		30				30	1	
	看護と社会福祉	○					30	30	1	
	看護と法律	○					30	30	1	
	心と健康	○	30					30	1	
	性と健康	○		15				15	1	
	人間関係と臨床心理	○			30			30	1	
	MEの基礎と応用	○					15	15	1	

カリキュラム表

第一看護学科（1990年度入学～1996年度入学）

授 業 科 目 名	必 選 別	時 間 数						単 位 数	備 考	
		1 年		2 年		3 年				合 計
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
看護学概論	○	45	15					60	2	
看護の現状と展望	○					15		15	1	
看護の基本技術Ⅰ	○	30						30	1	
看護の基本技術Ⅱ	○		45					45	1	
生活過程と看護技術	○	60						60	2	
健康レベルと看護技術	○		90					90	2	
成人看護の基礎Ⅰ	○	30						30	1	
成人看護の基礎Ⅱ	○		45					45	1	
成人の慢性期看護Ⅰ	○			30				30	1	
成人の慢性期看護Ⅱ	○			30				30	1	
成人の慢性期看護Ⅲ	○				45			45	1	
成人の急性期看護Ⅰ	○			30				30	1	
成人の急性期看護Ⅱ	○			30	30			60	2	
成人のリハビリテーション	○				30			30	1	
成人の終末期看護	○					30		30	1	
成人看護事例演習	○			15	15			30	1	
成人看護技術演習	○			15	30			45	1	
小児看護の基礎Ⅰ	○		15					15	1	
小児看護の基礎Ⅱ	○			30				30	1	
小児臨床看護	○			30				30	1	
小児の健康レベルと看護	○				45			45	1	
母性看護の基礎	○			30				30	1	
妊娠・分娩期の看護	○			30				30	1	
産褥期の看護	○				30			30	1	
母性看護学演習	○				30			30	1	
ゼミナールⅠ	○				30			30	1	
ゼミナールⅡ	○					30		30	1	
基礎看護実習Ⅰ	○	45						45	1	
基礎看護実習Ⅱ	○			90				90	2	
成人看護実習Ⅰ	○		90					90	2	
成人看護実習Ⅱ	○				90			90	2	
成人看護実習Ⅲ	○					450		450	10	
小児看護実習Ⅰ	○						45	45	1	
小児看護実習Ⅱ	○					90		90	2	
母性看護実習	○					135		135	3	
地域看護実習	○					45		45	1	

カリキュラム表

第二看護学科（1990年度入学～1996年度入学）

授 業 科 目 名		必 選 別	時 間 数				単 位 数	備 考			
			1 年		2 年				合 計		
			前 期	後 期	前 期	後 期					
一 般 教 育 科 目	総合	現代文明論	○	30	30			60	4		
	人 文 科 学 系 列	哲学	△	30					30	2	2科目4単位以上選択必修
		心理学	△	30					30	2	
		文学	△	30					30	2	
		芸術論	△	30					30	2	
	社 会 科 学 系 列	社会学	△	30					30	2	2科目4単位以上選択必修
		教育学	△	30					30	2	
		統計学	△	30					30	2	
	自 然 科 学 系 列	数学	△	30					30	2	2科目4単位以上選択必修
		物理学	△	30					30	2	
		化学	△	30					30	2	
		生物学	△	30					30	2	
		情報科学	△	30					30	2	
	外 国 語 科 目	英語Ⅰ	○	30	30				60	2	
		英語Ⅱ	○		30				30	1	
英語Ⅲ		○			30			30	1		
英語Ⅳ		×			30			30	1		
デンマーク語		×			30			30	1		
保 健 体 育 科 目	体育理論	○	15					15	1		
	体育実技	○	15	30				45	1		

カリキュラム表

第二看護学科（1990年度入学～1996年度入学）

授 業 科 目 名	必 選 別	時 間 数				単 位 数	備 考		
		1 年		2 年				合 計	
		前 期	後 期	前 期	後 期				
専 門 基 礎 科 目	社会と医療	○	15				15	1	
	人体の発生と構造・機能	○	45	15			60	2	
	代謝と栄養	○	30				30	1	
	人体とくすり	○	30				30	1	
	病理と治療Ⅰ	○		30			30	1	
	病理と治療Ⅱ	○		30			30	1	
	感染と防禦	○	30				30	1	
	生活と保健	○	15				15	1	
	看護と社会福祉	○			30		30	1	
	看護と法律	○			15		15	1	
	心と健康	○	15				15	1	
	性と健康	○	15				15	1	
	人間関係と臨床心理	○			30		30	1	
	MEの基礎と応用	○			15		15	1	

カリキュラム表

第二看護学科（1990年度入学～1996年度入学）

授 業 科 目 名	必 選 別	時 間 数				単 位 数	備 考	
		1 年		2 年				合 計
		前 期	後 期	前 期	後 期			
専 門 科 目	看護学概論	○	45			45	2	
	看護技術の基礎	○	60			60	2	
	健康レベルと看護技術	○		45		45	1	
	成人看護の基礎Ⅰ	○	30			30	1	
	成人看護の基礎Ⅱ	○		45		45	1	
	成人の慢性期看護Ⅰ	○		30		30	1	
	成人の慢性期看護Ⅱ	○			30	30	1	
	成人の急性期看護Ⅰ	○		30		30	1	
	成人の急性期看護Ⅱ	○			30	30	1	
	成人のリハビリテーション	○			30	30	1	
	成人の終末期看護	○			15	15	1	
	成人看護技術演習	○			45	45	1	
	小児看護の基礎Ⅰ	○	15			15	1	
	小児看護の基礎Ⅱ	○		30		30	1	
	小児臨床看護	○			45	45	1	
	母性看護の基礎	○		30		30	1	
	妊娠・分娩期の看護	○		30		30	1	
	産褥期の看護	○			30	30	1	
ゼミナール	○			30	30	1		
専 門 科 目 （ 臨 床 実 習 ）	基礎看護実習	○		90		90	2	
	成人看護実習Ⅰ	○			225	225	5	
	成人看護実習Ⅱ	○			225	225	5	
	小児看護実習	○			90	90	2	
	母性看護実習	○			90	90	2	
	地域看護実習	○			45	45	1	

科目区分別一覧表

第一看護学科（1997年度入学～2000年度入学）

科目区分	必選別	開講単位数				卒業 単位数	開講時間数				卒業 時間数
		1年	2年	3年	計		1年	2年	3年	計	
基礎教育科目	○	6			6	6	120			120	120
	△	36			36	12	660			660	240
専門教育科目	○	34	31	5	70	70	705	645	120	1470	1470
	△	1		2	3	2	30		30	60	30
	×		1	5	6	3		15	75	90	45
専門教育科目 （臨床実習）	○	4	3	16	23	23	180	135	720	1035	1035
自由履修科目	※				7	0					0
合 計		81	35	28	151	116	1695	795	945	3435	2940

第二看護学科（1997年度入学～1999年度入学）

科目区分	必選別	開講単位数			卒業 単位数	開講時間数			卒業 時間数
		1年	2年	計		1年	2年	計	
基礎教育科目	○	6		6	6	120		120	120
	△	36		36	12	660		660	240
専門教育科目	○	35	13	48	48	705	300	1005	1005
	△	1	2	3	2	30	30	60	30
	×	1	5	6	3	15	75	90	45
専門教育科目 （臨床実習）	○	1	15	16	16	45	675	720	720
自由履修科目	※			7	0				0
合 計		80	35	122	87	1575	1080	2655	2160

必選別について

- ：必修科目（必ず修得しなければならない科目）
- △：選択必修科目（指定された方法で選択し、必ず修得しなければならない科目）
- ×
- ※：随意科目（卒業要件に含まれない科目）

注意）授業時間数の開講時期配当は、年度により変更されることがある。

カリキュラム表

第一看護学科（1997年度入学～2000年度入学）、第二看護学科（1997年度入学～1999年度入学）

授 業 科 目 名			必 選 別	単 位 数	時 間 数						備 考
					1 年		2 年		3 年		
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
基礎 教 育 科 目	現代文明論	現代文明論Ⅰ	○	2	30						基礎教育科目においては、18単位以上を修得すること。 なお、総合教育科目よりは、6単位以上、外国語科目より3単位以上を修得すること。
		現代文明論Ⅱ	○	2	30						
	総合教育科目	文化と創造Ⅰ	△	2	30						
		文化と創造Ⅱ	△	2	30						
		精神と物質Ⅰ	△	2	30						
		精神と物質Ⅱ	△	2	30						
		心の働きと人間形成Ⅰ	△	2	30						
		心の働きと人間形成Ⅱ	△	2	30						
		人と社会Ⅰ	△	2	30						
		人と社会Ⅱ	△	2	30						
		自然と科学Ⅰ	△	2	30						
		自然と科学Ⅱ	△	2	30						
		生命と科学Ⅰ	△	2	30						
		生命と科学Ⅱ	△	2	30						
		情報科学Ⅰ	△	2	30						
		情報科学Ⅱ	△	2	30						
	外国語科目	英語Ⅰ	△	1	30						
		英語Ⅱ	△	1	30						
		英語Ⅲ	△	1	30						
		英語Ⅳ	△	1	30						
		英語Ⅴ	△	1	30						
		英語Ⅵ	△	1	30						
		外国語Ⅰ	△	1	30						
		外国語Ⅱ	△	1	30						
	体育科目	体育の理論と実技Ⅰ	○	1	30						
		体育の理論と実技Ⅱ	○	1	30						

授 業 科 目 名			必 選 別	単 位 数	時 間 数						備 考
					1 年		2 年		3 年		
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
自由 履 修 科 目	海外研修	欧州研修	※	1							
		海外研修航海	※	2							
		ハワイ英語研修	※	2							
		協定留学英語	※	2							

カリキュラム表

第一看護学科（1997年度入学～2000年度入学）

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数						備 考
				1 年		2 年		3 年		
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
看護と社会	社会と医療	○	1	15						専門教育科目 なお、選 択科目 必修科目 において は、2 単 位 以上 を 修 得 す る こ と 。
	生活環境と保健	○	2		30					
	看護と法律	○	1			15				
	看護と社会福祉	○	2				30			
人体の 仕 組 み と 働 き	人体の発生と構造・機能Ⅰ	○	2	45						
	人体の発生と構造・機能Ⅱ	○	2	45						
	人体の発生と構造・機能Ⅲ	○	1		15					
	代謝と栄養Ⅰ	○	2	30						
	代謝と栄養Ⅱ	○	2		30					
	人体とくすりⅠ	○	1		15					
	人体とくすりⅡ	○	2			30				
	病態生理と治療Ⅰ	○	2		30					
	病態生理と治療Ⅱ	○	1		15					
	病態生理と治療Ⅲ	○	2			30				
	病態生理と治療Ⅳ	○	2			30				
病態生理と治療Ⅴ	○	1			15					
人間の心 と働き	感染と防御	○	2	45						
	心と健康	○	2		30					
	セクシュアリティ	○	1		15					
看護の 概 論	人間関係と臨床心理	○	2			30				
	看護の概論	○	2	45						
	ライフサイクルの特性と発達課題Ⅰ	○	1	30						
	ライフサイクルの特性と発達課題Ⅱ	○	2	45						
	看護と健康	○	2		45					
	家族と地域社会	△	1					15		
	国際社会と看護	×	1					15		
専 門 教 育 科 目	看護と生命倫理	×	1					15		
	対象理解と看護過程Ⅰ	○	1	30						
	対象理解と看護過程Ⅱ	○	1		30					
	対象理解と看護過程Ⅲ	○	1		30					
	生活過程の援助技術Ⅰ	○	1	30						
	生活過程の援助技術Ⅱ	○	2		60					
	健康レベルと看護Ⅰ	○	1			30				
	健康レベルと看護Ⅱ	○	2				60			
	治療・検査を支える援助技術	○	2			45				
	教育・指導の技術	○	1				15			
	人間関係論	×	1				15			
健 康 問 題 と 看 護	看護と医療機器	×	1					15		
	成人の健康問題と看護Ⅰ	○	2			45				
	成人の健康問題と看護Ⅱ	○	2				45			
	老人の健康問題と看護	○	2				45			
	小児の健康問題と看護Ⅰ	○	1			30				
	小児の健康問題と看護Ⅱ	○	2				45			
	母性の健康問題と看護Ⅰ	○	2				45			
	母性の健康問題と看護Ⅱ	○	1					30		
	精神の健康問題と看護	○	1				30			
	地域・家族の健康問題と看護	○	1					30		
	訪問看護	△	1					15		
総 合 看 護	感染と看護	×	1					15		
	看護の理論	○	1					15		
	看護の現状と展望	○	1					15		
	看護研究の方法	○	1			30				
	ゼミナール	○	1					30		
	デンマーク看護研修	△	1	30						
	看護特論	×	1					15		
対 象 理 解 実 習	対象理解の実習Ⅰ	○	1	45						
	対象理解の実習Ⅱ	○	3		135					
	対象理解の実習Ⅲ	○	3				135			
統 合 実 習	成人看護実習	○	5					225		
	老人看護実習	○	1					45		
	小児看護実習	○	2					90		
	母性看護実習	○	2					90		
	精神看護実習	○	1					45		
	地域看護実習	○	1					45		
	I C U ・ O P 室看護実習	○	1					45		
総合実習	○	3						135		

カリキュラム表

第二看護学科 (1997年度入学～1999年度入学)

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数				備 考
				1 年		2 年		
				前 期	後 期	前 期	後 期	
看護と社会	社会と医療	○	1	15				専門教育科目においては、69単位以上を修得すること。 なお、選択必修科目においては、2単位以上を修得すること。
	生活環境と保健	○	1	15				
	看護と法律	○	1		15			
	看護と社会福祉	○	2			30		
人体の仕組みと働き	代謝と栄養	○	2	30				
	人体とくすり	○	2	30				
	病態生理と治療Ⅰ	○	2	30				
	病態生理と治療Ⅱ	○	1	15				
	病態生理と治療Ⅲ	○	2		30			
	病態生理と治療Ⅳ	○	2		30			
	病態生理と治療Ⅴ	○	1		15			
人間の心と働き	感染と防御	○	2	30				
	心と健康	○	1	15				
	セクシュアリティ	○	1	15				
人間の心と働き	人間関係と臨床心理	○	2			30		
	看護の概論	○	1	30				
	ライフサイクルの特性と発達課題Ⅰ	○	1	30				
看護の概論	ライフサイクルの特性と発達課題Ⅱ	○	2		45			
	看護と健康	○	2		45			
	家族と地域社会	△	1			15		
	国際社会と看護	×	1			15		
	看護と生命倫理	×	1			15		
	看護の方法	対象理解と看護過程Ⅰ	○	1	30			
対象理解と看護過程Ⅱ		○	1		30			
対象理解と看護過程Ⅲ		○	1		30			
健康を支える援助技術Ⅰ		○	1	30				
健康を支える援助技術Ⅱ		○	2		45			
教育・指導の技術		○	1		15			
人間関係論		×	1		15			
看護と医療機器		×	1			15		
健康問題と看護	成人の健康問題と看護Ⅰ	○	1			30		
	成人の健康問題と看護Ⅱ	○	1			30		
	老人の健康問題と看護	○	1			30		
	小児の健康問題と看護Ⅰ	○	1		30			
	小児の健康問題と看護Ⅱ	○	1			30		
	母性の健康問題と看護Ⅰ	○	1		30			
	母性の健康問題と看護Ⅱ	○	1			30		
	精神の健康問題と看護	○	1			30		
	地域・家族の健康問題と看護	○	1			30		
	訪問看護	△	1			15		
総合看護	感染と看護	×	1			15		
	看護の理論	○	1			15		
	看護の現状と展望	○	1			15		
	看護研究の方法	○	1		30			
	デンマーク看護研修	△	1	30				
対象理解実習	看護特論	×	1			15		
	対象理解の実習Ⅰ	○	1	45				
統合実習	対象理解の実習Ⅱ	○	2			90		
	成人看護実習	○	5				225	
	老人看護実習	○	1				45	
	小児看護実習	○	2				90	
	母性看護実習	○	2				90	
	精神看護実習	○	1				45	
	地域看護実習	○	1				45	
I C U ・ O P 室看護実習	○	1				45		

科目区分別一覧表

第一看護学科（2001年度入学～2003年度入学）、看護学科（2004年度入学）

科目区分	必選別	開講単位数				卒業 単位数	開講時間数				卒業 時間数
		1年	2年	3年	計		1年	2年	3年	計	
基礎教育科目	○	6			6	6	120			120	120
	△	32			32	12	570			570	240
専門教育科目	○	29	34	4	67	67	705	810	120	1635	1635
専門教育科目 （臨床実習）	○	1	2	20	23	23	45	90	900	1035	1035
自由履修科目	※				6	0					0
合 計		68	36	24	134	108	1440	900	1020	3360	3030

第二看護学科（2000年度入学～2003年度入学）

科目区分	必選別	開講単位数			卒業 単位数	開講時間数			卒業 時間数
		1年	2年	計		1年	2年	計	
基礎教育科目	○	6		6	6	120		120	120
	△	19	3	22	10	375	75	450	195
専門教育科目	○	30	12	42	42	750	300	1050	1050
	△		2	2	1		30	30	15
専門教育科目 （臨床実習）	○	3	13	16	16	135	585	720	720
自由履修科目	※			8	0				0
合 計		58	30	96	75	1380	990	2370	2100

必選別について

- ：必修科目（必ず修得しなければならない科目）
- △：選択必修科目（指定された方法で選択し、必ず修得しなければならない科目）
- ×：選択科目（指定された科目のうち、適宜選択できる科目）
- ※：随意科目（卒業要件に含まれない科目）

注意）授業時間数の開講時期配当は、年度により変更されることがある。

カリキュラム表

第一看護学科（2001年度入学～2003年度入学）、看護学科（2004年度入学）

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数						備 考	
				1 年		2 年		3 年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎 教育 科目	現代文明論	現代文明論Ⅰ	○	2	30						基 礎 教 育 科 目 に お い て は 、 1 8 単 位 以 上 を 修 得 す る こ と。 な お、 総 合 教 育 科 目 よ り 2 単 位 以 上 を 修 得 す る こ と。 情 報 科 目 よ り 2 単 位 以 上 、 外 国 語 科
		現代文明論Ⅱ	○	2		30					
	総合教育科目	文化と創造	△	2	30						
		精神と物質	△	2	30						
		心と健康	△	2	30						
		心と対人関係	△	2		30					
		人と社会	△	2	30						
		数字の基礎概念	△	2	30						
		物質と科学	△	2	30						
		生命とからだ	△	2		30					
	デンマーク看護研修	△	2	集中							
	情報科目	情報科学入門	△	2	30						
		情報科学基礎	△	2	30						
		情報科学応用	△	2		30					
	外国語科目	英会話Ⅰ	△	1	30						
		英会話Ⅱ	△	1	30						
		看護英語	△	1	30						
		医療英語	△	1	30						
		デンマーク語	△	1	30						
		中国語	△	1	30						
体育科目	フィットネス理論及び実習	○	1	30							
	スポーツ理論及び実習	○	1		30						

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数						備 考
				1 年		2 年		3 年		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	
自由 履 修 科 目	海外研修	欧州研修	※	2						
		海外研修航海	※	2						
		協定留学	※	2						

カリキュラム表

第一看護学科（2001年度入学～2003年度入学）、看護学科（2004年度入学）

授業科目名	必選別	単位数	時間数						備考	
			1年		2年		3年			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
社会保障制度と生活者の健康	社会と医療	○	1	15						
	生活環境と保健	○	1		15					
	看護と法律	○	1				30			
	看護と社会福祉	○	1				15			
	人間関係と臨床心理	○	1				30			
人回りの促進	現病歴・現症のとり方	○	2	45						
	恒常性維持機構	○	2	45						
	ライフサイクル	○	1	30						
	病気へのアプローチⅠ	○	2		45					
	病気へのアプローチⅡ	○	2		45					
	くすりと治療	○	1			30				
	診断と治療Ⅰ	○	2		45					
	診断と治療Ⅱ	○	2			45				
	感染と防御	○	1	30						
	看護概論Ⅰ	○	2	45						
看護の基礎理論と看護技術	看護概論Ⅱ	○	2		45					
	看護の理論	○	1				15			
	看護アセスメント	○	2		45					
	看護過程演習	○	1			30				
	看護の基本技術Ⅰ	○	1	30						
	看護の基本技術Ⅱ	○	2			30	15			
	生活過程を整える看護Ⅰ	○	1	30						
	生活過程を整える看護Ⅱ	○	1		30					
	生活過程を整える看護Ⅲ	○	1		30					
	急性期（周手術期）看護	○	2			45				
	ターミナルケア	○	1					30		
	感染と看護	○	1				15			
	看護と医療機器	○	1				15			
	看護と生命倫理	○	1				15			
	リスクマネジメント	○	1					30		
看護研究	○	1				30				
看護研究演習	○	1					30			
臨床看護論	成人看護学総論	○	1	30						
	成人臨床看護Ⅰ	○	1		30					
	成人臨床看護Ⅱ	○	1			30				
	成人臨床看護演習	○	2				45			
	老年看護学総論	○	2			45				
	老年臨床看護	○	2				45			
	小児看護学総論	○	1	30						
	小児臨床看護	○	2			45				
	小児臨床看護演習	○	2				45			
	女性の健康学	○	2	30	15					
	母性臨床看護	○	2			45				
	母性臨床看護演習	○	1				30			
	精神看護学総論	○	1				30			
	精神臨床看護	○	1				30			
	地域と家族看護Ⅰ	○	1			30				
地域と家族看護Ⅱ	○	1				30				
地域と家族看護演習	○	1					30			
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	○	1		45					
	基礎看護学実習Ⅱ	○	2			90				
	地域と家族看護実習	○	2					90		
	成人看護学実習Ⅰ	○	4					180		
	成人看護学実習Ⅱ	○	4					180		
	老年看護学実習	○	2					90		
	小児看護学実習	○	2					90		
	母性看護学実習	○	2					90		
	精神看護学実習	○	2					90		
総合看護実習	○	2					90			

カリキュラム表

第二看護学科（2000年度入学～2003年度入学）

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数				備 考
				1 年		2 年		
				前 期	後 期	前 期	後 期	
基礎 教 育 科 目	現代文明論	現代文明論Ⅰ	○	2	30			基礎 教 育 科 目 に お い て は 、 1 6 単 位 以 上 を 修 得 す る こ と。 な お 、 総 合 教 育 科 目 よ り 6 単 位 以 上 、 外 国 語 科 目 よ り 2 単 位 以 上 を 修 得 す る こ と。
		現代文明論Ⅱ	○	2		30		
	総合教育科目	文化と創造	△	2		30		
		精神と物質	△	2	30			
		心の働きと人間形成	△	2	30			
		人と社会	△	2	30			
		自然と科学	△	2		30		
		生命と科学	△	2		30		
		デンマーク看護研修	△	2	60			
	情報科目	情報科学基礎	△	2		45		
		情報科学応用	△	2			45	
	外国語科目	英語Ⅰ	△	1	30			
		英語Ⅱ	△	1	30			
		英語Ⅲ	△	1		30		
		英語Ⅳ	△	1			30	
	体育科目	体育の理論と実技Ⅰ	○	1	30			
体育の理論と実技Ⅱ		○	1		30			

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数				備 考
				1 年		2 年		
				前 期	後 期	前 期	後 期	
自由 履 修 科 目	海外研修	欧州研修	※	2				
		海外研修航海	※	2				
		ハワイ英語研修	※	2				
		協定留学	※	2				

カリキュラム表

第二看護学科（2000年度入学～2003年度入学）

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数				備 考
				1 年		2 年		
				前 期	後 期	前 期	後 期	
専 門 教 育 科 目	看護学概論	看護の概論Ⅰ	○	2	45			な お、 選 択 必 修 科 目 に お い て は、 5 9 単 位 以 上 を 修 得 す る こ と。 な お、 選 択 必 修 科 目 よ り は、 1 単 位 以 上 を 修 得 す る こ と。
		看護の概論Ⅱ	○	1			15	
		看護の理論	△	1			15	
		看護と生命倫理	△	1			15	
		看護と研究	○	1		30		
	人間の心と体	心と健康	○	1	30			
		人間関係と臨床心理	○	1		30		
		人体の仕組みと働きⅠ	○	1	30			
		人体の仕組みと働きⅡ	○	1	30			
	疾病の成り立ち と回復の促進	病態生理と治療Ⅰ	○	3	45			
		病態生理と治療Ⅱ	○	3		45		
		病態生理と治療Ⅲ	○	1		15		
		病態生理と治療Ⅳ	○	1			15	
	看護と社会	看護と法律	○	1	30			
		生活環境と保健	○	1	30			
		看護と社会福祉	○	1		30		
	看護の方法	看護過程Ⅰ	○	2	45			
		看護過程Ⅱ	○	1		30		
		健康レベルと看護Ⅰ	○	1	30			
		健康レベルと看護Ⅱ	○	2		45		
	ライフサイクル と看護	地域・家族と看護Ⅰ	○	1		30		
		地域・家族と看護Ⅱ	○	1			30	
		地域・家族と看護Ⅲ	○	1			30	
		小児看護学Ⅰ	○	1	30			
		小児看護学Ⅱ	○	1		30		
		小児看護学Ⅲ	○	1			30	
		成人看護学Ⅰ	○	1		30		
		成人看護学Ⅱ	○	1			30	
		成人看護学Ⅲ	○	1			30	
		老年看護学Ⅰ	○	1		30		
		老年看護学Ⅱ	○	2			45	
		母性看護学Ⅰ	○	1	30			
		母性看護学Ⅱ	○	1		30		
母性看護学Ⅲ		○	1			30		
精神看護学		○	2			45		
看護学実習		基礎看護実習	○	3		135		
	地域・家族看護実習	○	2			90		
	成人看護実習	○	3			135		
	老年看護実習	○	2			90		
	小児看護実習	○	2			90		
	母性看護実習	○	2			90		
	精神看護実習	○	2			90		

科目区分別一覧表

看護学科（2005年度入学～2008年度入学）

科目区分	必選別	開講単位数				卒業 単位数	開講時間数				卒業 時間数
		1年	2年	3年	計		1年	2年	3年	計	
基礎教育科目	○	6			6	6	120			120	120
	△	20			20	12	360			360	210
	※	4			4	0	120			120	0
専門教育科目	○	25	36	1	62	62	570	915	15	1500	1500
	△	1	2	2	5	2	15	30	30	75	30
専門教育科目 （臨床実習）	○	1	2	20	23	23	45	90	900	1035	1035
自由履修科目	※				8	0					0
合 計		57	40	23	128	105	1230	1035	945	3210	2895

必選別について

- ：必修科目（必ず修得しなければならない科目）
- △：選択必修科目（指定された方法で選択し、必ず修得しなければならない科目）
- ×：選択科目（指定された科目のうち、適宜選択できる科目）
- ※：随意科目（卒業要件に含まれない科目）

注意）授業時間数の開講時期配当は、年度により変更されることがある。

カリキュラム表

看護学科 (2005年度入学～2008年度入学)

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数						備 考	
				1 年		2 年		3 年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎 教育 科目	現代文明論	現代文明論Ⅰ	○	2	30						12単位以上を修得すること。 なお、総合教育科目より8単位以上、情報科目より2単位以上、外国語科目より2単位以上を修得すること。
		現代文明論Ⅱ	○	2		30					
	総合教育科目	文化人類学	△	2		30					
		生命とからだ	△	2		30					
		芸術と表現	△	2	30						
		人間関係論	△	2	30						
		発達心理学	△	2	30						
		経済のしくみ	△	2	30						
	情報科目	情報科学Ⅰ	△	2	30						
		情報科学Ⅱ	△	2		30					
	外国語科目	英語：スピーキング	△	1	30						
		英語：リーディング	△	1	30						
		英語：リスニング	△	1		30					
		英語：ライティング	△	1		30					
		英語：文献講読Ⅰ	※	2	集中						
		英語：文献講読Ⅱ	※	2	集中						
体育科目	フィットネス理論・実習	○	1	30							
	スポーツ理論・実習	○	1	30							

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数						備 考	
				1 年		2 年		3 年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
自由 履 修 科目	海外研修	デンマーク看護研修	※	2							
		ハワイ語学研修	※	2							
		海外研修航海	※	2							
		協定留学	※	2							

カリキュラム表

看護学科 (2005年度入学～2008年度入学)

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数						備 考	
				1 年		2 年		3 年			
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
社会保障制度と生活者の健康	現代医療論	○	1		15						社会福祉論、家族関係論より1単位以上を修得すること。
	疫学と生活環境	○	2	30							
	看護と関係法規	○	2				30				
	社会福祉論	△	1			15					
	家族関係論	△	1	15							
人体の構造と機能	人体の構造	○	2	45							
	人体の機能	○	2	30							
	代謝と栄養	○	1	15							
疾病の成り立ちと回復の促進	臨床薬理学	○	1			30					
	感染と防御	○	1		15						
	臨床病態学Ⅰ	○	2	15	30						
	臨床病態学Ⅱ	○	2		45						
	臨床病態学Ⅲ	○	1			15					
	臨床病態学Ⅳ	○	2			60					
	臨床病態学特論	○	1					15			
看護の基礎領域	看護学概論	○	2	30	15						リーダーシップ論、看護の展望、看護の理論より1単位以上を修得すること
	看護過程	○	2		45						
	看護過程演習	○	1			30					
	看護の基本技術Ⅰ	○	1	30							
	看護の基本技術Ⅱ	○	1		30						
	看護の基本技術Ⅲ	○	2			30	15				
	生活過程を整える看護技術Ⅰ	○	1	30							
	生活過程を整える看護技術Ⅱ	○	1		30						
	生活過程を整える看護技術Ⅲ	○	1		30						
	健康の段階と看護基礎技術	○	1			30					
	リーダーシップ論	△	1						15		
	看護の展望	△	1						15		
	看護の理論	△	1				15				
	リスクマネジメント	○	1				30				
	看護研究の基礎	○	1				30				
	在宅看護概論	○	1			30					
	在宅看護論Ⅰ	○	2				45				
在宅看護論Ⅱ	○	1				30					
成長発達別看護の領域	精神看護学概論	○	1		30						
	精神臨床看護Ⅰ	○	2			45					
	精神臨床看護Ⅱ	○	1				30				
	成人看護学概論	○	1	30							
	成人臨床看護Ⅰ	○	1		30						
	成人臨床看護Ⅱ	○	2			45					
	成人臨床看護Ⅲ	○	1				30				
	成人臨床看護Ⅳ	○	2				45				
	老年看護学概論	○	1		30						
	老年臨床看護Ⅰ	○	2			30	15				
	老年臨床看護Ⅱ	○	1				30				
	小児看護学概論	○	1			30					
	小児臨床看護Ⅰ	○	2			30	15				
小児臨床看護Ⅱ	○	1				30					
性・生殖と看護	○	1			30						
母性臨床看護Ⅰ	○	2			30	15					
母性臨床看護Ⅱ	○	1				30					
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	○	1		45						
	基礎看護学実習Ⅱ	○	2			90					
	在宅看護実習	○	2					90			
	精神看護学実習	○	2					90			
	成人看護学実習Ⅰ	○	4					180			
	成人看護学実習Ⅱ	○	4					180			
	老年看護学実習	○	4					180			
	小児看護学実習	○	2					90			
母性看護学実習	○	2					90				

科目区分別一覧表

看護学科（2009年度入学～2019年度入学）

科目区分	必選別	開講単位数				卒業 単位数	開講時間数				卒業 時間数
		1年	2年	3年	計		1年	2年	3年	計	
基礎教育科目	○	6			6	6	120			120	120
	△	24	4		26	13	480	90		540	270
専門教育科目	○	25	39	2	66	66	570	960	30	1560	1560
	△		2		2	1		30		30	15
専門教育科目 （臨床実習）	○	1	2	20	23	23	45	90	900	1035	1035
自由履修科目	※				6	0					0
合 計		56	47	22	129	109	1215	1170	930	3285	3000

必選別について

- ：必修科目（必ず修得しなければならない科目）
- △：選択必修科目（指定された方法で選択し、必ず修得しなければならない科目）
- ×：選択科目（指定された科目のうち、適宜選択できる科目）
- ※：随意科目（卒業要件に含まれない科目）

注意1）授業時間数の開講時期配当は、年度により変更されることがある。

注意2）1・2年対象科目は、各学年の開講単位数（時間数）に計上する。但し、計は実数とする。

カリキュラム表

看護学科 (2009年度入学～2019年度入学)

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数						備 考		
				1 年		2 年		3 年				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎 教育 科目	現代文明論	現代文明論Ⅰ	○	2	30							13単位以上を修得すること。 なお、総合教育科目より8単 位以上、情報科目より1単位 以上、外国語科目より4単位 以上を修得すること。
		現代文明論Ⅱ	○	2		30						
	総合教育科目	文化人類学	△	2		30						
		地球環境と科学	△	2		30						
		芸術と表現	△	2	30							
		コミュニケーションと対人関係	△	2	30							
		発達心理学	△	2	30							
		経済のしくみ	△	2	30							
		ことばと表現	△	2	30							
		国際理解とデンマーク看護研修	△	2	30		30					
	情報科目	情報検索と活用	△	1	30							
		情報の処理と分析	△	1		30						
	外国語科目	英語：スピーキング	△	2	60	(60)						
		英語：ライティング	△	2	(60)	60						
		英語：リスニング	△	2		60	(60)					
		英語：リーディング	△	2		(60)	60					
	体育科目	フィットネス理論・実習	○	1	30	(30)						
		スポーツ理論・実習	○	1	(30)	30						

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数						備 考	
				1 年		2 年		3 年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
自由 履 修 科 目	海外研修	ハワイ語学研修	※	2							
		海外研修航海	※	2							
		協定留学	※	2							

カリキュラム表

看護学科 (2009年度入学～2019年度入学)

授 業 科 目 名		必 選 別	単 位 数	時 間 数						備 考		
				1 年		2 年		3 年				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門基礎分野	健康支援と 社会保障制度	現代医療論	○	1		15						
		疫学と生活環境	○	2	30							
		看護と関係法規	○	2				30				
		社会福祉論	○	1				15				
	人体の構造と 機能	人体の構造	○	2	45							
		人体の機能	○	2	30							
		代謝と栄養	○	1	15							
	疾病の成り立ち と回復の促進	臨床薬理学	○	1			30					
		感染と防御	○	1		15						
		臨床病態学Ⅰ	○	2		45						
		臨床病態学Ⅱ	○	2		45						
		臨床病態学Ⅲ	○	2				30				
		臨床病態学Ⅳ	○	2				60				
	専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	○	1	30						
			看護倫理	○	1				15			
看護アセスメントⅠ			○	1	15	15						
看護アセスメントⅡ			○	1		30						
看護の実践			○	1			30					
看護の基本技術Ⅰ			○	1	30							
看護の基本技術Ⅱ			○	2			30	30				
生活過程を整える看護技術Ⅰ			○	2	45							
生活過程を整える看護技術Ⅱ			○	2		45						
健康の段階と看護基礎技術			○	1			30					
臨地実習		基礎看護学実習Ⅰ	○	1		45						
		基礎看護学実習Ⅱ	○	2			90					
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	○	1		30						
		成人臨床看護Ⅰ	○	1			30					
		成人臨床看護Ⅱ	○	2			45					
		成人臨床看護Ⅲ	○	1				30				
		成人臨床看護Ⅳ	○	2				45				
	臨地実習	成人看護学実習	○	6						270		
	老年看護学	老年看護学概論	○	1		30						
		老年臨床看護Ⅰ	○	2			30	15				
		老年臨床看護Ⅱ	○	1				30				
	臨地実習	老年看護学実習	○	4						180		
	小児看護学	小児看護学概論	○	1		30						
		小児臨床看護Ⅰ	○	2			30	15				
		小児臨床看護Ⅱ	○	1				30				
	臨地実習	小児看護学実習	○	2						90		
	母性看護学	性・生殖と看護	○	1			30					
母性臨床看護Ⅰ		○	2			30	15					
母性臨床看護Ⅱ		○	1				30					
臨地実習	母性看護学実習	○	2						90			
精神看護学	精神看護学概論	○	1		30							
	精神臨床看護Ⅰ	○	2			45						
	精神臨床看護Ⅱ	○	1				30					
臨地実習	精神看護学実習	○	2						90			
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	○	1			30					
		在宅看護論Ⅰ	○	2			15	30				
		在宅看護論Ⅱ	○	1				30				
	臨地実習	在宅看護実習	○	2						90		
	看護の統合と 実践	看護のマネージメント	○	1					15			
		災害看護と国際看護活動	○	1					15			
		看護と医療安全	○	1				30				
家族看護学		○	1			15						
臨地実習	看護研究の基礎	○	1				30					
	生命と倫理	△	1				15					
	看護の理論	△	1				15					
臨地実習	統合実習	○	2						90			

生命と倫理、看護の理論より
1単位以上を修得すること。

3) ティーチング・オブ・ザ・イヤー

本学は、2003年度より、教員の教育力向上に資する活動を積極的に展開することを求め、学生による授業評価アンケートを基に優れた授業を行った教員を選出し、「ティーチング・オブ・ザ・イヤー」として褒賞した。

歴代受賞者（年度・教員氏名・科目名）

2003年度	横島 啓子	「老年看護学総論」
2004年度	望月 好子	「女性の健康学」
2005年度	瀧澤 直子	「精神看護学総論」
2006年度	吉野 由美子	「精神臨床看護Ⅰ」
2007年度	橘田 節子	「小児臨床看護Ⅰ」
2008年度	林 真理子	「生活過程を整える看護技術Ⅲ」
2009年度	中田 芳子	「在宅看護論Ⅱ」
2010年度	二見 眞一郎	「臨床病態学Ⅱ」
2011年度	蔵本 文乃	「健康の段階と看護基礎技術」
2012年度	該当者なし	
2013年度	千葉 美果	「看護の基本技術Ⅱ」
2014年度	二葉 千鶴	「人体の構造」
2015年度	阿部 ケエ子	「成人臨床看護Ⅳ」
2016年度	端山 淳子	「健康の段階と看護基礎技術」
2017年度	大貫 美奈子	「精神臨床看護Ⅱ」
2018年度	蔵本 文乃	「看護アセスメントⅠ」
2019年度	座波 ゆかり	「母性臨床看護Ⅱ」

4) 教職員一覧

(1) 学長

松前 重義	(1974. 4. 1～1977. 9. 30)
笹本 浩	(1977. 10. 1～1979. 12. 14)
佐々木 正五	(1979. 12. 14～1992. 3. 31)
三富 利夫	(1992. 4. 1～1997. 3. 31)
玉置 憲一	(1997. 4. 1～1999. 3. 31)
母里 知之	(1999. 4. 1～2000. 3. 31)
谷野 隆三郎	(2000. 4. 1～2002. 3. 31)
母里 知之	(2002. 4. 1～2008. 3. 31)
灰田 宗孝	(2008. 4. 1～2019. 3. 31)
沓澤 智子	(2019. 4. 1～2022. 3. 31)

(2) 学部長

内田 靖子	(1974. 4. 1～1988. 3. 31)
前田 マスヨ	(1990. 4. 1～1992. 3. 31)

(3) 学長補佐

野村 公寿	(1999. 4. 1～2000. 3. 31)
堺 春美	(2001. 4. 1～2002. 8. 31)
飛田 美穂	(2004. 4. 1～2010. 3. 31)

(4) 学長付

高倉 巖 (1986. 4. 1～1998. 3. 31)
野村 公寿 (1998. 4. 1～1999. 3. 31)
徳田 裕 (1998. 4. 1～1999. 3. 31)
斉藤 拾子 (1998. 4. 1～2001. 3. 31)
堺 春美 (2000. 4. 1～2001. 3. 31)
飛田 美穂 (2002. 4. 1～2004. 3. 31)
吉田 礼子 (2013. 4. 1～2015. 3. 31)
中田 芳子 (2018. 4. 1～2019. 3. 31)
灰田 宗孝 (2019. 4. 1～2022. 3. 31)

(5) 学科主任

山根 信子 (1987. 4. 1～1990. 3. 31)
片山 美都子 (1990. 4. 1～1999. 3. 31)
稲光 禮子 (1999. 4. 1～2001. 3. 31)
熊谷 智子 (2001. 4. 1～2007. 3. 31)
吉田 礼子 (2007. 4. 1～2013. 3. 31)
中田 芳子 (2013. 4. 1～2018. 3. 31)
望月 好子 (2018. 4. 1～2022. 3. 31)

(6) 事務課長・学務課長・事務室長

事務課長 澄川 晴大 (1974. 4. 1～1976. 3. 31)
 中根 定治 (1976. 4. 1～1977. 3. 31)
 加治 義男 (1977. 4. 1～1984. 3. 31)
 中根 定治 (1974. 4. 1～1985. 3. 31) 兼務
 奈良 繁男 (1986. 4. 1～1997. 3. 31) 兼務
学務課長 木本 雄一 (1974. 4. 1～1977. 3. 31)
 中根 定治 (1977. 4. 1～1987. 3. 31) 兼務
 倉橋 勇一 (1987. 4. 1～1989. 3. 31)
 大庭 信一 (1989. 4. 1～1991. 3. 31)
 奈良 繁男 (1991. 4. 1～1994. 3. 31) 兼務
事務室長 園山 浩 (1997. 4. 1～1998. 3. 31)
 遠藤 繁幸 (1998. 4. 1～2002. 3. 31)
 櫻井 和好 (2002. 4. 1～2013. 3. 31)
 一野谷 陽一 (2013. 4. 1～2016. 3. 31)
 白井 政司 (2016. 4. 1～2020. 3. 31)
 富田 鉄二 (2020. 4. 1～2021. 3. 31)
 佐藤 多嘉雄 (2021. 4. 1～2022. 3. 31)

(7) 教員 (50 音順)

() 内は、旧姓 (医療技術短期大学在籍時に姓変更した者のみ記載)

青山 泉	後藤 雪絵	橋本 一代
秋元 (佐野) 園子	小松 迪弥	長谷川 ヤエ
秋元 とし子	五味 千帆	服部 紀子
阿部 ケエ子	斎鹿 ミヤコ	林 真理子
淡路 房子	才木 滋子	端山 淳子
飯沢 正美	坂本 優子	原田 光子
飯室 淳子	佐々木 優	春田 典子
五十嵐 典子	笹谷 ミキ	樋口 貴子
石川 操	佐藤 淑子	久永 千歳
石附 友美	座波 ゆかり	広瀬 楽
泉 義雄	重富 三枝子	福留 勇
井上 幸子	穴戸 美知子	藤田 智恵子
猪股 智恵子	柴田 洋美	藤村 龍子
今瀬 繁子	清水 貴美子	二葉 千鶴
岩屋 (石井) 裕美	白石 和子	二見 眞一郎
上田 邦枝	新道 幸恵	湊田 明子
恵美須 文枝	末廣 妙子	細田 (北山) 泰子
遠藤 裕子	杉森 みどり	堀 喜久子
大熊 壮尚	鈴木 陽子	堀江 朝子
大鳥 蘭三郎	鈴木 りつ子	堀田 美鈴
大貫 美奈子	関田 潔	前澤 尚子
大野 知代	芹澤 章子	牧原 和子
岡本 妙子	高橋 里江	松木 秀明
小川 景子	高橋 俊子	眞船 拓子
尾近 千鶴	高橋 みや子	溝口 満子
長内 佐斗子	高柳 朋恵	宮島 千明
小澤 ミヨ子	瀧澤 直子	村田 恵子
加藤 星花	武田 清香	村田 教枝
鹿野 松	谷 規久子	村中 陽子
加納川 栄子	丹澤 洋子	室伏 圭子
萱嶋 美子	千葉 美果	森久保 好文
菊池 有紀	塚田 トキエ	山内 進
木下 曜子	中川 三穂	山口 由子
木村 (橘田) 節子	長鶴 美佐子	山本 よしえ
久保 典子	中原 香代子	横島 啓子
熊谷 たまき	中村 栄里	吉岡 敏子
蔵谷 範子	中村 多仁子	吉田 キミコ
蔵本 文乃	中村 真理子	吉田 みな子
高本 征子	中谷 啓子	吉田 裕子
幸山 靖子	新村 直子	吉野 由美子
小島 善和	南野 千恵子	渡邊 真弓
児玉 寛子	野尻 昭代	

以上 125 名

(8) 事務職員 (50 音順)

会田 千里
秋本 美智子
秋山 英二
石川 ひろみ
石渡 勝男
磯崎 昌美
伊東 拓哉
伊藤 真弓
井上 茂夫
今井 富美子
大島 美知子
大底 勝子
甲斐 友子
加賀 敬子
梶田 晶子
加藤 利雄
金木 章子
金子 洋子
神長 タカヨ
神長 正雄
川内 由美
北室 和茂
熊本 ミチコ
監物 千秋
小城 史子
小瀬村 登代子

小林 宏彰
西条 美智子
佐久間 悦子
佐々木 美代子
佐藤 智佳子
清水 弘子
白井 宏
菅沼 はるみ
鈴木 友子
鈴木 由香里
鈴木 幸子
須田 陽子
清田 真一
関 香代子
芹沢 利尚
添田 市子
田崎 義勝
田中 弘昭
田邊 梨里子
津金 幹彦
寺田 仁
寺村 絵美
土井内 貴美子
土井内 信
中村 直人
中村 李菜

西山 京子
平井 玲佳
平柳 京子
福田 淳
藤原 伸
古市 慶子
古市 典雄
古屋 江里子
古谷 (馬場) 暁絵
松村 恭二
三浦 昭良
三村 紀子
宗清 康佑
森 三保子
柳泉 修一
柳泉 多喜子
柳川 裕恵
矢野 敏晃
山内 貴和子
山口 幸子
山崎 貴代美
山田 桃子
山本 恵
横田 卓
吉村 美智子
渡部 真紀

以上 78 名

5) 年度、学科別卒業生数

東海大学医療技術短期大学卒業生数一覧

卒業生 5,397名

卒業回	卒業年 (年号) S. 昭和 H. 平成 R. 令和	卒業年 (西暦)	年度	第一看護学科・看護学科			第二看護			卒業年度 合計
				3月 卒業生	9月 卒業生	計	3月 卒業生	9月 卒業生	計	
1	S. 51	1976	1975				28		28	28
2	S. 52	1977	1976	22		22	49		49	71
3	S. 53	1978	1977	56	1	57	65		65	122
4	S. 54	1979	1978	50		50	73	2	75	125
5	S. 55	1980	1979	71	1	72	70		70	142
6	S. 56	1981	1980	75	3	78	59	4	63	141
7	S. 57	1982	1981	71	1	72	51	7	58	130
8	S. 58	1983	1982	93	2	95	22		22	117
9	S. 59	1984	1983	85	2	87	28	4	32	119
10	S. 60	1985	1984	95	2	97	44		44	141
11	S. 61	1986	1985	74	7	81	44	9	53	134
12	S. 62	1987	1986	114	8	122	38	2	40	162
13	S. 63	1988	1987	82	4	86	53	3	56	142
14	H. 1	1989	1988	106	14	120	40	3	43	163
15	H. 2	1990	1989	99	3	102	36		36	138
16	H. 3	1991	1990	101		101	44		44	145
17	H. 4	1992	1991	88	1	89	43		43	132
18	H. 5	1993	1992	110		110	42		42	152
19	H. 6	1994	1993	103	1	104	49	1	50	154
20	H. 7	1995	1994	104	3	107	42	1	43	150
21	H. 8	1996	1995	98	2	100	54		54	154
22	H. 9	1997	1996	99	1	100	47		47	147
23	H. 10	1998	1997	102	1	103	48		48	151
24	H. 11	1999	1998	77		77	51		51	128
25	H. 12	2000	1999	69		69	49		49	118
26	H. 13	2001	2000	87		87	48		48	135
27	H. 14	2002	2001	71		71	53		53	124
28	H. 15	2003	2002	88		88	47		47	135
29	H. 16	2004	2003	82		82	53		53	135
30	H. 17	2005	2004	79	1	80	54		54	134
31	H. 18	2006	2005	75		75				75
32	H. 19	2007	2006	84		84				84
33	H. 20	2008	2007	81		81				81
34	H. 21	2009	2008	86		86				86
35	H. 22	2010	2009	86		86				86
36	H. 23	2011	2010	82		82				82
37	H. 24	2012	2011	85		85				85
38	H. 25	2013	2012	83		83				83
39	H. 26	2014	2013	96		96				96
40	H. 27	2015	2014	83		83				83
41	H. 28	2016	2015	89		89				89
42	H. 29	2017	2016	83		83				83
43	H. 30	2018	2017	89		89				89
44	R. 1	2019	2018	78		78				78
45	R. 2	2020	2019	83		83				83
46	R. 3	2021	2020	78		78				78
47	R. 4	2022	2021	87		87				87
合計						3,937			1,460	5,397

5. 大学行事

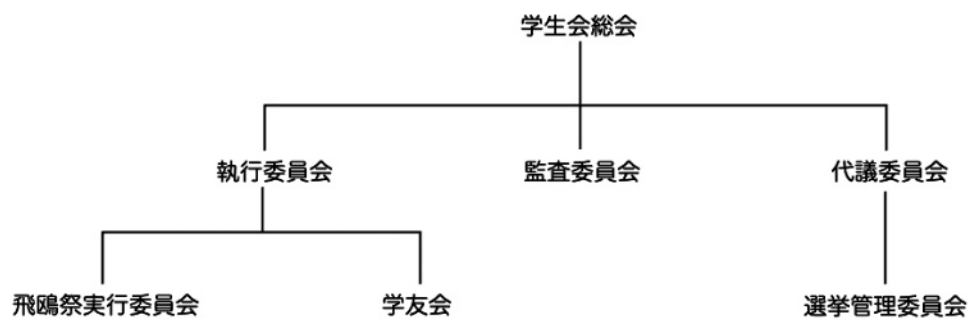
1) 学生会の組織と取組み

学生会は、1974年10月に発足し、1975年1月に活動を開始した。学生会は、学生の自由な意思によって、有意義で楽しい学生生活を送るための活動機会として自主的に結成されたものである。学生会の組織は、学生総会、執行委員会、監査委員会、代議委員会、選挙管理委員会、飛鷗祭実行委員会、学友会、で構成されている。毎年5月に学生総会を開催し、学生会の運営等について報告・議決される。執行委員会役員選挙は、選挙管理委員会を中心に1月に行われ、3月に引き継がれる。選挙では、委員長1名、副委員長2名、会計・書記・総務を各1～2名選出している。3年生になると実習があり、学外に出ていることが多く、また、国家試験の勉強にも力を入れるため、執行委員会の役員には1、2年生が選出されている。学生会の活動内容は、各委員会の予算編成や年間行事の企画運営で、学生会は諸行事において中心になって活動をしている。

主な行事

時期	行 事
4月	学生交流会（新入生研修会）
5月	学生総会 後援会との懇談会
6月	スポーツ大会
9月	東海大学短期大学スポーツ大会（2017年まで）
11月	飛鷗祭
1月	執行委員会役員選挙
2月	国家試験激励会
3月	卒業式（謝恩会）

学生会の組織



2) 学友会

学友会は、クラブ、サークルおよび同好会の総称で、学生相互の団結と親睦を深めるために、結成された。1976年に茶道部、煎茶研究みなづき会、趣味を広げよう会、社交舞踊研究会、合気道部から発足した。途中で活動を中断するクラブがある一方で、バレーボール部やバスケットボール部、音楽サークルやボランティアサークルなど新しいクラブが発足した。学内のみの活動に留まらず、学外での活動も積極的に行っていた。

3) 飛鷗祭

飛鷗祭は、11月1日～3日までの3日間にわたって開催される学園祭である。開学当初は、学部の学生と共に建学祭に参加していたが、医療技術短期大学独自の学園祭を開催したいということで、1978年に第1回飛鷗祭が開催された。

飛鷗祭実行委員会を中心に、学生が主体となって企画・運営が行われ、クラスやクラブ毎に、日頃の学修成果の発表や体験コーナー、模擬店と多くの催し物があり、学生だけではなく、地域の方々との交流も盛んに行われた。また、同窓会との合同企画で同窓生と在学生の交流会や後援会による模擬店など、多くの力を借りながら、第1回から途切れることなく開催された。なお、各回のテーマは以下のようになっている。

飛鷗祭テーマ

回	年	テーマ
第1回	1978	White spot in Tokai-白い光、今さしこみ始めた朝日に輝ける希望を！
第2回	1979	はばたけ大空へ・・・今
第3回	1980	めざめよ今 青春の瞬間
第4回	1981	今、青春の足跡を残せ
第5回	1982	この指とまれ
第6回	1983	グラフィティー 思いのままに
第7回	1984	素顔のままに
第8回	1985	COMBINATION SALAD 個性と協調性
第9回	1986	私の心は有頂天
第10回	1987	Turning Point -未知の世界に向かって-
第11回	1988	一瞬一秒 -その時代はあなた自身のもの-
第12回	1989	心の時代
第13回	1990	探究 いちばん大切なことみつけない
第14回	1991	真実の姿 見なおそう・・・今こそ今だから
第15回	1992	革命宣言 新風への挑戦
第16回	1993	飛躍 空高く飛び出そう！エンジン全開
第17回	1994	「どきっ！」としなくちゃ -見たい、知りたい、感じたい-
第18回	1995	知恵と勇気と思いやり -夢の実現へ今、この時代だから-
第19回	1996	Heartful Smile ~貴方の心は満たされていますか？~
第20回	1997	SNAP Super Nurse Access Power
第21回	1998	Hot Step Nurse ~The new 21 st . century~
第22回	1999	POWER of the Smile ~そこから看護は始まる~
第23回	2000	二千夢交流 -ミレニアムドリームコミュニケーション-
第24回	2001	新世紀一発目!! 米つぶからおにぎりへ
第25回	2002	Grow of Nursing angel ~25番目の扉~
第26回	2003	Hear of angel for all, All for one ~この想いをのせて~
第27回	2004	医短の中心で看護を叫ぶ ~つかのまの大騒ぎ~
第28回	2005	愛・医短博 ~看護は地球を救う~
第29回	2006	場寄い ~医短色に染まれば良いじゃん~
第30回	2007	すべての人に愛の手を
第31回	2008	心優 ~あなたの心に優しさ満タン~
第32回	2009	一護百愛 ~一つの看護に百の愛を~
第33回	2010	One for All All for One ~支え愛~
第34回	2011	Keep your smile -笑顔は人を幸せにする-

第 35 回	2012	Puzzle	“ひとりひとりが輝くピース”
第 36 回	2013	“絆”	～医短に咲くオレンジのバラ～
第 37 回	2014	“40 祭”	～EN-JOY!～
第 38 回	2015	Liv (リヴ)	～heart でつなぐみんなの輪～
第 39 回	2016	繫	～すべての人にありがとう～
第 40 回	2017	軌跡	40 年目 今私たちのところに
第 41 回	2018	一護一笑	～出会った人に感謝と笑顔を届けよう～
第 42 回	2019	和気逢愛	～巡り逢った人々に元気と愛を伝えよう～

4) 戴帽式

戴帽式の挙行について、「東海大学医療技術短期大学 20 周年記念誌」に次のように記載している。

「開学当時は特別に準備、企画をしていなかった。1968 年～1969 年頃、日本全国を吹き荒れた学園紛争の際、看護学校で戴帽式が争点になった例が多いことから、本学では学校の決めた押しつけの式典はやらないことにし、学生自身が戴帽式の意義を理解し、希望するものでなければ挙行しないことにしていた。740KF 生は、クラスで討議し、他の看護学校へのアンケート調査などの結果、『学生生活 3 年間のうちに、この道を選んだことの責任の重大さを感じるとともに、喜びと誇りをもって学習を続けるための儀式として行いたい』と内田靖子学部長へ提案し、自主的な戴帽式が生まれた。その後戴帽式は学校行事の一つと位置づけられ本学の伝統ある行事のひとつとなっている。」

本学の戴帽式は、1975 年に第 1 回を挙行し、以後 2000 年まで 27 回実施している。

第 1 回目は、1975 年 9 月 22 日に松前重義前総長の出席のもとに大学の講堂において挙行された。以後、第 2 回目からは、ナイチンゲール生誕の日である 5 月 12 日に挙行されることになった。第 9 回（1983 年）からは、戴帽式の日の中午に講演会を実施した。第 11 回（1985 年）から、第二看護学科も本学で戴帽式を行うこととし、第 12 回（1986 年）より、第一看護学科、第二看護学科合同で 10 月に実施するよう変更した。第 13 回（1987 年）からは、場所を松前記念館に変更し、来賓、父母を招いて行った。

戴帽式の目的及び目標は次のとおりであった。

<目的>

看護の学習過程において、看護の意義を受け止め、看護を職業として選んだ自己の確認と同時に、看護婦になるための意志と情熱を高揚させるための機会とする。

<目標>

1. 看護とは何かについて考えることができる。
2. 看護婦になることへの意思決定をすることができる。
3. 看護への学習意欲を一層高めることができる。

5) 新入生研修会

新入生研修会は、入学した学生が早く学生生活に適応できるよう開学初年度は 1 泊 2 日、2 回目からは 2 泊 3 日の日程で 2000 年度まで実施された。新入生が学生生活をより有意義に送るための方向づけを目的とし、グループ討議やレクリエーションなどを行った。また、プログラムの企画運営に協力する学生はアドバイザーとして、新入生各グループの統率や連絡、グループ討議の準備や司会などを担当していた。

6) 学生交流会

実習などで全学生が集まり親睦を深める機会が少ないことから、スポーツを通じて学生及び教職員の交流を図ることを目的として「学生球技大会」がスタートした。以後、1997 年度に「学生交流会」と名称を変えた。2004 年度からは、「新入生の不安や悩みの解消の場」とするとともに、全学生、

教職員の親睦を図る」ことを目的として、2000 年度まで実施していた新入生研修会の要素も加え、学生・教職員交流、ゲーム、クラブ活動紹介などを行った。

7) 東海大学短期大学(部)スポーツ大会

1987 年 9 月に第 1 回東海大学短期大学(部)スポーツ大会が、東海大学短期大学部(高輪・静岡)、東海大学医療技術短期大学の 3 校合同で、湘南校舎総合体育館で開催された。1990 年からは、東海大学福岡短期大学が加わり、3 短期大学 4 校が集うスポーツイベントとなった。以後、短期大学部(高輪)・福岡短期大学が閉学となったことから、2017 年第 31 回大会が最後の大会となった。

目的、主な競技種目、歴代優勝校は、以下のとおりである。

目的：「建学の精神」に則り、各短大の代表される学生が一致団結して、スポーツを通じて学生相互の交流・親睦と技術向上を図り、学園の発展に自らが歴史を作る一員である事の意義を学ぶ事を目的とする。

主な競技種目：バレーボール(女子)、バスケットボール(女子)、バドミントン(女子)、硬式テニス(女子)、ソフトボール(女子)、バレーボール(男子)、ソフトボール(男子)、ボウリング、卓球、フットサル、綱引き、百足リレー、スウェーデンリレー

*男子学生の競技が実施されたのは、第 7 回(1993 年度)から

歴代優勝校：

第 1 回 高輪校舎	第 9 回 静岡校舎	第 17 回 福岡短大	第 25 回 静岡校舎
第 2 回 医療短大	第 10 回 高輪校舎	第 18 回 静岡校舎・高輪校舎	第 26 回 福岡短大
第 3 回 医療短大	第 11 回 高輪校舎	第 19 回 福岡短大	第 27 回 福岡短大
第 4 回 静岡校舎	第 12 回 静岡校舎	第 20 回 福岡短大	第 28 回 福岡短大
第 5 回 静岡校舎	第 13 回 静岡校舎	第 21 回 福岡短大	第 29 回 福岡短大
第 6 回 高輪校舎	第 14 回 静岡校舎	第 22 回 福岡短大	第 30 回 福岡短大
第 7 回 静岡校舎	第 15 回 静岡校舎	第 23 回 福岡短大	第 31 回 静岡校舎
第 8 回 静岡校舎	第 16 回 静岡校舎	第 24 回 福岡短大	



6. 国際交流

1) デンマークとの交流

【デンマークとの交流の概要】

(1) 東海大学医療技術短期大学の設立とデンマーク看護研修

本学の開設に先立って、創設者松前重義博士の指示により東海大学ヨーロッパ学術センター (TUEC) の職員が、デンマーク看護協会 (以下、DNO とする) の協力と援助を得て、研修を企画・運営したところから本交流は始まった。教員および付属病院の看護師が 2 か月間デンマークでの研修をし、その研修での知見を基礎に、デンマークの看護職のように、自ら誇りを持って自律して看護の本質を極めていけるような人材を育成していきたいと考え、本学の教育理念である「温かい看護のできる人間性豊かな看護師の育成」につなげたとされる。開学以降、途切れることなくこの研修は続き、これらの交流が源となり、2000 年 12 月 13 日にデンマークオーフス地域の 3 つの看護学校 (現在の VIA ユニバーシティカレッジ健康科学部) と本学の間に学術交流に関する基本協定が締結された。その後、定期的にデンマークからの研修団が訪日するようになり、約 1 週間程度の研修を日本で実施し、これらの相互交流からもより深い信頼関係を築くことができた。

(2) 「国際理解とデンマーク看護研修」科目の概要

事前学習～研修～事後学習までの一連の準備については、資料 図 1 に示すとおりである。研修期間だけでなく、事前学習および事後学習にも注力し、2009 年度からは基礎教育科目の総合教育科目の選択必修科目として研修を位置付けた。具体的には、事前知識として最低限必要な事項について、個人またはグループで分担しながら調べたものを発表し、共有学習することなども毎年実施した。さらに、日本の実情を知るための日本看護協会訪問や種々の施設見学なども毎年実施した。事後学習については、個人レポートの他、本学学園祭 (飛鷗祭) でもブースを設け、ポスター掲示や学習成果についてプレゼンテーションを行った。

(3) 参加者及び研修期間

第 1 回から第 45 回までの参加学生総数は 551 名であり、教職員数も併せた合計は、658 名であった。研修期間は、第 25 回以降は本学単独でのデンマーク看護研修となり、おおむね 15 日間であったが、2015 年度第 41 回は、臨地実習の関係から事前学習も含めた日程が非常に過密になったため、13 日間に短縮した。

(4) 研修内容

主に以下の場所で研修を実施した。

【コペンハーゲン地区】

①国民高等学校の見学

国民高等学校は、基礎教育を終えた学ぶ意欲のある大人が、自分の人生観や将来について考え、自由に学ぶことのできる学校であり、デンマークの特徴的な学校である。学生は、日本の教育制度と比較しながら、自分自身の将来や日本の教育のあり方について考える機会となっていた。

②デンマーク看護協会 (DNO)

DNO には毎年訪問し、デンマークの看護協会の目的や活動について知り、看護師自身の労働条件や労働環境をも守っていく、デンマークの労働に対する考え方を学んだ。また、看護学生の組織もあることから、学生であっても一人ひとりが自分の意志や意見をもって活動していくことを知り、学生には大きな刺激になっていた。

③高齢者施設への訪問

デンマーク人は一人ひとりの生き方を大切にし、互いに支え合いながら国づくりをしてきたと言われ、生まれてから死ぬまでそれぞれの生き方を支える仕組みとして発展してきたのが社会福祉制度である。ここでは、個人のライフスタイルを大切にし、また、家族に任せるのではなく、社会で一人ひとりの人生を最後まで支えていこうとする考え方に直接触れることができた。

④ホームドクター訪問

ホームドクター制度は、日本とデンマークの医療制度の大きな違いのひとつである。子どもは生まれたらホームドクターを持ち、様々な健康問題について一生継続した支援を受けている。日本の病院や医療と比較しながら、国の制度としての医療のあり方を考える機会になっていた。

⑤森の幼稚園訪問

第 39 回からデンマークの教育の実際を見学する目的で森の幼稚園の訪問を企画した。幼稚園の裏にある広大な森に園児と一緒にいき、一緒に遊び、交流した。日本の教育との違いを実体験し、自然と触れ合いながら一人ひとりの園児の個性を大切にしているデンマークの教育の原点に触れられる機会となっていた。

⑥同窓会との交流

第 39 回から、東海大学ヨーロッパ学術センター (TUEC) 内で同窓会 (デンマーク人で日本への留学経験がある人々の会) と本学学生との交流会を行った。交流会後も、学生の自由研修のサポートをしてくださり、学生たちにとってデンマーク人の人柄や優しさに触れる貴重な機会になっていた。

【オーフス/シルケボー地区】

①オーフス・シルケボー看護学校 (現 VIA オーフス/シルケボー看護学科) 訪問

オーフス看護学科は、当初オーフス・コムーン・ホスピタル付属の看護学校であったが、1994 年よりオーフス市立の看護学校となり、2007 年以降は VIA オーフス/シルケボー看護学科となった。ここでは、教員の講義を聴講し、看護学生の演習のデモンストレーションの見学や体験をした。また、本学学生による英語でのプレゼンテーションを実施し、参加したデンマークの学生との意見交換を行った。学生は、言葉が十分伝わらない中でも多くの人と気持ちを通じ合える喜びを実感し、真のコミュニケーションの大切さに気づく場となっていた。

②病院見学

第 28 回までは、オーフス・コムーン・ホスピタルにおいて、第 29 回以降は、シルケボー・セントラル・ホスピタルにて、見学実習を行った。各病棟に 1 名～2 名の学生が配置され、看護師とともに、患者のベットサイドに行き、日常生活援助を一緒に体験し、与薬や処置などの見学を実施した。学生は、この体験をとおして、英語の力が不足していて言葉でのコミュニケーションが十分でなくても互いに理解しようという気持ちが大切であることを学んでいた。

③学生交流会・VIA ユニバーシティカレッジの先生宅での食事会・サンクスパーティ

学生交流会は、オーフスおよびシルケボー地区で行われた。デンマーク看護学生が「学生交流会」に本学学生を招待してくださり、ゲーム等を通じて学生間の交流が図れ、ここでも言葉のみではないコミュニケーションの重要性を学ぶことができていた。

また、毎回の研修では、オーフスおよびシルケボー看護学科の先生方が、数人ずつ研修参加学生と教員をご自宅に招待してくださり、心のこもった夕食をいただきながら、ご家族を含めた交流を深めることができ、デンマークの家庭での暮らしや文化について触れる機会となった。

研修の最後には、本学の学生主催のサンクスパーティを開催し、主にシルケボー地区でお世話になった先生方や看護師の方々を招待し、歌やダンスを披露し、研修の受け入れへの感謝の気持ちを伝えた。

(5) 東海大学ヨーロッパ学術センター(TUEC) およびデンマークとの連携

45 年間綿々と続いたデンマーク看護研修は多くの人々に支えられて成り立っていた。

特に、デンマーク現地に TUEC という拠点をもっているからこそ継続できる研修である。企画段階での相談、現地での物心両面からの暖かいサポートがあり、引率教職員が少人数でも大きな事故なく継続できたことは、TUEC の全面的な協力あってこそであった。

また、オーフス・シルケボー地区では、教員の方々のご厚情により、本学教員および学生を各ご家庭に招いていただき、ご家族とも交流させていただくという貴重な機会を得る中で、一般の海外研修企画では得られない経験を数多くすることができた。

本学とデンマークとの交流はここで終わりを迎えるが、この交流の軌跡は今後の両国の交流の歴史に刻まれ、東海大学とデンマークとの連携が今後もより発展していく礎の一つになることを期待する。

【資料】

表1	デンマークとの交流	デンマーク看護研修	
1973年11月		大学設立前の準備として教員が研修団としてデンマーク訪問 第1回目	
1974年1月		大学設立前の準備として教員が研修団としてデンマーク訪問 第2回目	
1974年10月	デンマークからクリステ・ユル夫妻(元デンマーク看護協会オーフス支部長)来学		
1975年4月		本学開学	
1975年8月		第1回デンマーク看護研修実施(本学のみ) 参加学生13名 教員1名	
1977年8月		第3回デンマーク看護研修 この回より、東海大学短期大学(4校舎)合同欧州研修旅行の行程内にて実施	
1994年10月	創立20周年記念式典にて招聘講演 メルテ・トルセン(デンマーク看護協会会長) グレート・キリング(オーフス看護学校)	↓	
1999年3月	デンマークより教員他7名、学生9名の研修受入れ		
1999年8月		第25回デンマーク看護研修実施 この回より本学だけの研修となる(毎年実施)	
2000年12月	デンマークオーフス地域看護学校との 学術交流協定締結	↓	
2005年10月	創立30周年記念式典にて招聘講演 インガマル・ガレー・イェンセン(オーフス看護学校) グレート・キリング(オーフス看護学校)		
2006年4月	デンマークより教員他10名、学生10名の 研修受入れ		
2010年4月	デンマークより教員他4名、学生26名の 研修受入れ		
2013年3月	デンマークより教員他2名、学生14名の 研修受入れ		
2015年3月	デンマークより教員他3名、学生19名の 研修受入れ		
2017年3月	デンマークより教員他3名、学生19名の 研修受入れ		
2019年4月	デンマークより教員他4名、学生18名の 研修受入れ		第45回デンマーク看護研修実施

表2 デンマーク看護研修 参加数

		1回-25回	25回-45回	合計	
		延べ人数	延べ人数		
学生数	第一看護学科	1年生	9	165	174
	看護学科 (25回より)	2年生	114	144	258
		3年生	51	9	60
		1年生	12	—	12
	第二看護学科	2年生	47	—	47
		合計	233	318	551
教職員数		教員	50	44	94
		職員	10	3	13
		合計	293	365	658

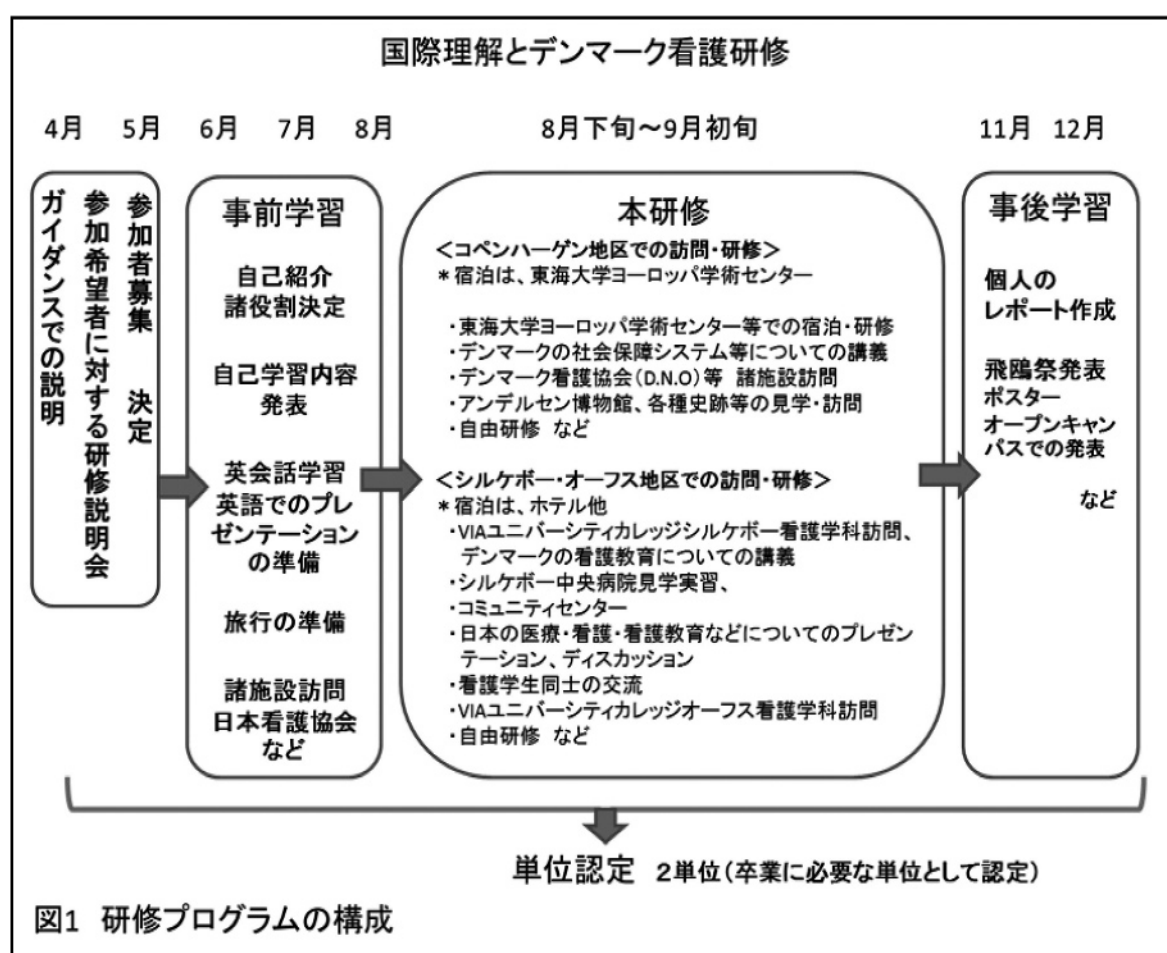


表3 訪問先の主な施設と研修内容

訪問施設	研修内容(講義内容)
オフィス看護学校(現看護学科)	講義「デンマークの教育システム・制度」 演習 解剖・生理学についてCTや模型を用いて学ぶ
シルケボー看護学校(現看護学科)	講義「デンマークにおける看護教育」「デンマークにおける医療・福祉制度」 「看護プログラムの目的・学校の教育理念、カリキュラムについて」 演習 現地看護学生の演習デモンストレーション見学 本学学生の英語によるプレゼンテーション「日本文化の紹介」「日本の看護教育について」等 学生同士のディスカッション・交流
オフィススコーン病院 シルケボーセントラル病院	見学実習・5～6の病棟に1名～2名の学生で、看護婦(看護学生も含む)とともに病院見学実習を行う。ユニホーム着用し、約2～3時間(午前中のみ) 施設見学
ペイシエントhotel	施設見学、ペイシエントhotelの役割について
コミュニティセンター	見学実習・5～7カ所のセンターの訪問看護師(看護学生を含む)に1名～2名の学生がついて、訪問看護見学実習を行う。約2～3時間(午前中のみ)
看護センター	施設見学 講義「センターの設立目的、概要」 「デンマークの老人・障害者看護システム」
高齢者のための住宅施設	施設見学、施設の役割、入居者について など
デンマーク看護婦協会(DNO)	講義「デンマーク看護協会の目的、組織、役割、運営」 「看護学生と協会参加の関わり、看護協会の会員の活動」 「デンマークの看護教育制度の歴史と現状」 「看護師の責務と役割・医療現場における立場」 「訪問看護における看護師とホームヘルパーの責務と役割」
東海大学ヨーロッパ学術センター	施設の設置目的と運営・創立者の記念碑への献花 デンマークの社会制度、医療制度の概要(TUEC職員及び外部からの講師を招き講義を受ける)
グルントビ国民高等学校 望星(bousei)国民高等学校 エグモント国民高等学校	施設見学 講義「国民高等学校とは 学校紹介」「デンマークにおける国民高等学校の歴史と役割」
補助器具センター	施設見学、センターの役割、利用システム、各種補助器具の使用方法、実際に車椅子に試乗など
ホームドクター	施設見学、講義「ホームドクター制度について」
森の幼稚園	子供達と一緒に屋外保育に参加

【デンマークにおけるシンポジウムの開催】

1974年から始まったデンマークとの交流は、学生中心であったが、教員や看護師として互いの実践について意見交換し合う機会をもつため、東海大学 75 周年記念行事として、交流の拠点である東海大学ヨーロッパ学術センターでシンポジウムを実施した。

参加者は、VIA ユニバーシティカレッジ教員 3 名、シルケボー病院看護師 2 名、本学教員 3 名、東海大学医学部付属八王子病院看護師 1 名、同大磯病院看護師 1 名、通訳 1 名であった。

各国の特徴および看護教育システムについて

日本	デンマーク
(1) 日本のヘルスケアに関する課題 ・日本の人口と年齢構成・世帯の推移について ・2025年問題について ・世界の中での日本高齢者に関する特徴 ・入院患者と外来患者の高齢化 ・少子化問題・日本の総人口の減少・日本の死亡原因 ・生活習慣病について ・日本の国民皆保険制度 ・地域包括ケアシステムについて	1) デンマークの新しい看護教育制度 ・看護師の教育期間と教育単位 ・教育単位の内訳 ・教育課程における各教育機関で実施する共通性と独自性 ・看護のイノベーション・改革・革新について ・学ぶべき学問分野(経営・品質管理・技術開発、社会学)の増加 ・EU基準と働く場について ・デンマークの奨学金制度
(2) 日本の看護教育制度 ・看護基礎教育制度 ・4年制看護大学の増加 ・看護基礎教育履修科目 ・看護師の働く場所 ・専門看護師・認定看護師制度	2) 看護師としての人格形成と教育 ・思いやりのある看護師の養成にむけて ・患者家族中心の看護 ・多職種連携、協働のネットワーク ・ライフクオリティー4項目と看護 ・クリティカルシンキングとプロフェッショナル
(3) 日本の看護の現状について ・看護師の交替勤務の現状 ・就業状況・退職理由・新採用者の退職 ・日本看護協会の重点政策	3) 思いやりのある看護師を育てるために ・VTR教材・ディスカッションを用いた教育方法 ・学生の感性・気づく力を高め、個人的責任、プロフェッショナルとしての判断力を身に付けさせるために

上記内容について、両国からの発表とディスカッションを実施した。本シンポジウムの内容は、2017年9月24日に開催された東海大学看護研究会第7回学術集会において、映像で上映しポスターを掲示した。本シンポジウムでの活動が学術集会にもつながり、テーマを「その人らしさを大切にする看護の創造～『幸せの国』デンマークの看護に学ぶ～」とし、VIAユニバーシティカレッジ校長ベギーテ・ヒンスガウル先生に基調講演をお願いすることができた。

本学は、2021年度をもって閉学となるがVIAユニバーシティカレッジと続いた40数年間の交流を東海大学や附属病院全体で引き継ぎ、途切れることのないようすすめていく必要がある。そして、この交流が東海大学の建学の精神を学び育てる場として継承されることを期待したい。

2) 学生研修

本学の学生が参加可能な海外研修は以下のとおりであった。東海大学で実施している海外研修にも参加できるようなカリキュラム構成とし、多くの学生が諸外国の文化等に触れ、人間の相互理解を深めた。

欧州研修：夏期休暇中を利用して他短大（東海大学短期大学部（高輪・静岡）、東海大学福岡短期大学）の学生と共に、欧州の各国（オーストリア、スイス、ドイツ、フランス）を訪問する約10日間の日程で行われる研修であった。

デンマーク看護研修：1998年度までは欧州研修の後半に、1999年度からは本学単独でデンマーク看護研修として実施された。夏期休暇中の約2週間、デンマークの看護を学ぶ研修として本学の学生海外研修の代表的なものであった。

ハワイ語学研修：東海大学パシフィックセンター、ハワイ東海インターナショナルカレッジでの語学研修として、1993年は8月から9月にかけての2週間、以後は、2月～3月の約1ヶ月間、東海大学の学生とともに、英語運用能力の向上と国際感覚を身につけることを目的として開催された。

海外研修航海：東海大学海洋調査研修船「望星丸」を利用して、南太平洋諸国や東南アジア諸国などを約45日間にわたって巡り、国際交流や外洋航海、船上生活を通じて、異文化理解や環境保護、協調性の大切さなどを実践的に学ぶことを目的としている。東海大学、3短期大学の学生を対象に参加者を募集し、書類・面接選考を経て研修学生を決定している。団役員として本学の教員も複数人参加した。

海外派遣留学制度を利用した研修：学校法人東海大学及び学園内各機関と国外の教育機関との間における協定、または覚え書きによる海外派遣留学制度を利用した研修である。本学学生が参加した研修は以下のとおりである。

- ・西オーストラリア大学、2017年2月～3月、英語初級、1名、ホームステイ
- ・オークランド大学、2018年2月～3月、英語初級、1名、ホームステイ
- ・モンクット王ラカバン工科大学、2018年3月、ボランティア・文化講座、2名、寮



7. 総合看護研究施設

総合看護研究施設は1991年4月1日に、建学の精神に則り、看護分野に関連する諸科学を科学的・技術的・総合的に研究し、看護の発展に寄与貢献することを目的に設立された。

設立以来、看護教育と臨床看護の連携をより深めるため、学内外の看護職者を対象に、看護の質向上に向けた支援活動を実施してきた。また、2007年度からは地域住民を対象に、健康の維持向上のための啓蒙活動にも取り組んできた。

活動は、地域の看護職者の看護研究能力を支援する活動、本学教員および学外共同研究者を対象とした研究助成、論文集の発刊、地域住民の健康生活の維持・向上に役立つ公開講座の3つを大きな柱としてきた。

1) 公開講座

看護職者を対象とした公開講座は、2000年度から看護師の研究能力向上のための講座を行った。2005年度からは量的研究のための統計処理に特化した講座を開講した。

公開講座は、地域の看護職者を対象にした看護師の研究能力向上のための公開講座と地域住民の健康活動の維持向上のための公開講座を行ってきた。

(1) 地域の看護職者を対象

年度	テーマ	内容
2000	看護研究力向上講座-あなたのオヤッ！を研究に繋げよう	第1回「看護研究の方法を学ぼう」(堀 喜久子) 第2回「調査研究を学ぶ」(松木秀明) 第3回「事例研究を学ぶ」(雄西智恵美) 第4回「研究のまとめ方-論文を書こう」(中村真理子)
2001	看護研究力向上講座-あなたのオヤッ！を研究に繋げよう	第1回「看護研究と問題解決思考を学ぶ」(堀 喜久子) 第2回「調査研究を学ぶ」(松木秀明) 第3回「事例研究を学ぶ」(雄西智恵美) 第4回「研究のまとめ方」(中村真理子)
	質問紙による調査研究を実践的に学ぼう	第1回「研究計画を立案しよう」(堀 喜久子) 第2回「質問紙を作成しよう」 第3回「調査結果を集計し統計的に分析しよう」 第4回「調査結果を読み、論文を書こう」
2002	医療事故防止対策講座	第1回「ヒューマンエラー」(望月亨子) 第2回「医療事故と看護師」(村上美好) 第3回「インシデントレポートの記載とその活用方法」(金子万里子) 第4回「医療事故と法的責任」(宇都木伸)
	看護研究力向上講座-あなたのオヤッ！を研究に繋げよう	第1回「看護研究と問題解決思考を学ぶ」(堀 喜久子) 第2回「事例研究を学ぶ」(渡辺真理) 第3回「調査研究を学ぶ」(佐藤孝子) 第4回「研究のまとめ方-論文を書こう」(屋宜譜美子)
2003	看護研究力向上講座-あなたのオヤッ！を研究に繋げよう	第1回「看護研究と問題解決思考を学ぶ」(堀 喜久子) 第2回「調査研究を学ぶ」(佐藤孝子) 第3回「事例研究を学ぶ」(渡辺真理) 第4回「研究のまとめ方-論文を書こう」(屋宜譜美子)
2004	看護研究力向上講座-調査研究に強くなるよう	第1回「看護研究の概要-楽しく看護研究をすすめるには」(堀 喜久子) 第2回「調査研究の実際 研究計画、質問紙の作り方など」(堀 喜久子) 第3回「調査研究の実際 データの収集・分析についてなど」(佐藤孝子) 第4回「調査研究の実際 考察・まとめ方など」(佐藤孝子)
2005	調査研究にチャレンジ	第1回「看護研究の概要-楽しく看護研究をすすめるには」(堀 喜久子) 第2回「調査研究の実際Part1 研究計画立案、質問紙の作成など」(堀 喜久子) 第3回「調査研究の実際Part2 データの集計・分析方法など」(佐藤孝子) 第4回「調査研究の実際Part3 考察・まとめ方など」(佐藤孝子)
	看護研究力向上講座	「エクセルで統計処理 実践編」(須藤真由美)

2006	ビギナーのための看護研究	第1回「看護研究の概要 楽しく看護研究をするためには」(堀 喜久子) 第2回「調査研究の実際Part1 研究計画立案、質問紙の作り方など」(望月好子) 第3回「調査研究の実際Part2 データの集計・分析・統計の基礎」(須藤真由美) 第4回「調査研究の実際Part3 調査研究の実際Part3 考察・まとめ方・論文の書き方など」(吉田礼子)
	看護研究力向上講座	「エクセルで統計処理 実践編」(須藤真由美)
2007	看護研究力向上講座	「エクセルで統計処理 実践編」(須藤真由美) 1) 「基本から学ぶエクセル活用方法について」エクセル未経験者 2) 「エクセルで行う統計処理」エクセル経験者
2008	看護研究力向上講座	「エクセルで統計処理」(松木秀明) 1部 エクセル未経験者 / 2部 エクセル経験者
2009	看護研究力向上講座	「エクセルで統計処理入門編」(松木秀明)
2010	看護研究力向上講座	「エクセルで統計処理入門編」(松木秀明)
2011	看護研究力向上講座	「エクセルで統計処理入門編」(松木秀明)
2012	看護研究力向上講座	「エクセルで統計処理入門編」(松木秀明)
2013	看護研究力向上講座	「エクセルで統計処理入門編」(松木秀明)
2014	看護研究力向上講座	「看護研究に役立つエクセル講座～初心者編～」(望月好子)
2015	看護研究力向上講座	「看護研究に役立つエクセル講座～超初心者編～」(望月好子)
2016	看護研究力向上講座	「看護研究に役立つエクセル講座～一次集計を学ぼう～初級者編」(望月好子)
2017	看護研究力向上講座	「看護研究に役立つエクセル講座～一次集計を学ぼう～」(望月好子)
2018	看護研究力向上講座	「看護研究に役立つエクセル講座～一次集計を学ぼう～」(望月好子)

(2) 地域の住民対象

2007年度より、地域住民のヘルスプロモーションへの支援活動として、公開講座を開催した。2009年度からは、医療技術短期大学学長である灰田教授が講師となり、2010年度から「脳と健康生活」に関するテーマで実施した。参加者は、近隣地域の60才以上の方々が大半だったが、若い層や夫婦で参加する方、リピーターもおり、脳の健康に対する関心の高さが伺われた。

年度	テーマ	内容
2007	メタボリックシンドローム	1) 肥満はなぜ悪い？－悪玉脂肪細胞とメタボリックシンドローム(飛田美穂) 2) 食生活管理－実践と継続の要点(飛田美穂)
2008	やってみよう！ますます元気生活	1) みつめよう自分の健康 「健康とストレス」(飛田美穂) 2) やってみよう車椅子の操作
2009	どう防ぐ？インフルエンザ	1) インフルエンザの基礎知識(灰田宗孝) 2) インフルエンザの予防法正しい手洗い・マスク着用方法の体験
2010	めざそう脳活性	1) 脳を若々しく保つ方法(灰田宗孝) 2) 実践編：五感を使って脳を磨く
2011	めざそう脳活性	1) わかりやすい脳活性の話(灰田宗孝) 2) 実践編：脳を若々しく保つ方法
2012	脳活性と健康生活	1) わかりやすい脳活性の話(灰田宗孝) 2) 実践編：いつまでもおいしく食べるために
2013	加齢と健康生活	1) 脳と健康生活～いつまでも元気に暮らせるために(灰田宗孝) 2) 実践編：与えよう！脳への良い刺激 あなたも活き活き脳活性
2014	脳活性について	1) 加齢と健康生活(灰田宗孝) 2) 実践編：いつも元気に暮らすコツ！
2015	「脳と健康」～元気に暮らそう！～	認知症とはどんな病気？(灰田宗孝)
2016	脳と健康生活～いつまでも元気に暮らそう！～	脳血管疾患(脳梗塞など)とはどんな病気(灰田宗孝)
2017	脳と健康生活～いつまでも元気に暮らそう！パート2～	健康寿命を考えた生活のヒント(灰田宗孝)
2018	脳と健康生活	華麗なる高齢者生活 ～加齢を理解し楽しく生きよう～

2) 看護研究支援

2002年度に、神奈川県内100床以上の病院看護部に「看護研究」に関する質問紙調査を実施した。その結果、ほとんどの病院看護部では看護職者に看護研究を義務づけているが、研究を進める支援体制を院内にもたず、そのことが看護職者の研究活動の問題となっていることが伺えた。また、本施設へ期待する要望として「研究の支援体制」が多くあげられていた。それらの要望を受けて2003年度から看護研究支援活動を実施してきた。看護研究支援の目的は神奈川県内の病院等の施設に勤務しながら看護研究活動を行っている看護職者に対し研究支援活動を行い、看護職者の主体的な研究活動を支援し、研究の推進を図るとともに臨床看護の充実に貢献することであった。

神奈川県下の100床を越える病院に研究の面接指導の案内を出し、年に4回の研究指導を実施した。毎年10件前後の応募があり、施設内外での発表等、設定した目標が達成できるよう、主体的な研究活動の支援を2018年度まで行った。

3) 総合看護研究施設論文集

本学教職員が教育活動と並行して取り組む研究成果を取りまとめ、以下のとおり発刊した。

東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設年報

第1号 1991年度 ～ 第12号 2002年度

東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集

第13号 2003年度 ～ 第29号 2021年度



8. 健康推進室

1) 位置づけ・役割

健康推進室は、「学生の疾病予防と健康の維持増進を図り、学生自身が自ら心身共に健康なキャンパスライフが送れるための活動を行う」ことを目的に1994年に設置された。

主な役割としては、①学校保健安全法で定められている定期健康診断の実施及びその後のフォロー、②健康相談及び指導（メンタル面での支援を含む）、③健康教育、④応急処置、⑤学校行事での救護、⑥小児期感染症の抗体の有無の把握とワクチン接種の推奨と血液検査による抗体確認、⑦流行性の感染症への対応と指導、⑧B型肝炎予防ワクチンの接種、⑨各クラスの保健委員を指導、飛鷗祭での学生による健康教育のサポート、⑩湘南健康推進会議へ参加し、湘南健康推進センターの拠点校として情報共有及び問題解決能力向上のための研修参加、⑪災害発生時における初動対応ができるよう、救護物品の整備および防寒シーツ・簡易トイレなどの準備を行った。

健康推進室の担当は、看護学科の教員3名が兼務している。講義や実習で不在のこともあるため、学内の他の教職員と連携、協力し、また、東海大学湘南健康推進室とも緊密に連携しながら業務を遂行した。

主な臨床実習の場である伊勢原キャンパスには独立した健康推進室は設置していなかったが、横になれる簡易ベッド、応急用薬剤を置いた。また、実習中の体調不良時には東海大学医学部付属病院に受診できる体制を作り協力を得た。年に数人の学生が受診した。

2) 変遷

1991年度～1993年度 東海大学湘南校舎保健管理センターにて健康管理

1994年度 学内に健康管理室設置

1995年度～健康管理室業務開始

1999年度～B型肝炎ワクチン接種開始

2003年度～東海大学付属病院就職用健康診断開始

2006年度～学生の心理的側面の調査（アンケート）を行い、指導教員と共にサポートを開始

2007年度～構内禁煙

全国で麻疹の流行が見られたため予防接種等の啓蒙活動を行い本学では発症は見られなかった。

東海大学健康推進センターが新設

2008年度～東海大学健康推進センターの新設に伴い、健康管理室から健康推進室と名称変更

2010年度～湘南健康推進室を借用し健康診断を実施

2014年度～湘南健康推進室と合同で健康診断専門業者に依頼し実施

2020年度～新型コロナウイルス感染症流行に対し、学内に設置された現地対策本部と共同し対応にあたった。

新型コロナウイルス感染症流行に伴い、本学のみで健康診断専門業者に依頼し実施した。

新型コロナウイルス感染症流行に伴い、感染予防の実施、啓蒙活動、アプリを活用した。

健康管理を実施した結果、1名の陽性者があったが、クラスター発生はなかった。

9. 図書館

図書館は、必要な図書館資料を収集・管理し、教職員・学生の利用に供し、教育及び学術研究に資することを目的とし、運営されてきた。

1) 活動状況

(1) 開館時間

曜日	授業開講期間	左記以外の時間
月～金	9時～19時	9時～17時
土	9時～16時	9時～16時

※開館時間は図書館利用規程によるが、1996年度から1998年度の3年間のみ授業開講期間に20時までの延長開館を実施している。

(2) 休館日

日曜日、国民の祝日、秘鴉祭期間、その他館長が必要と認める日。

(3) 設備

開学時はK館の閲覧室と開架室であったが、1995年にJ館のJS103教室を書庫とし総延べ面積は約355㎡となっている。書庫には手動式の集密書架を設置してある。K館の閲覧室は1999年にレイアウトを変更し閲覧机と椅子をリニューアル、2000年に視聴覚用ブース、2001年には利用者用パソコンを設置した。その後文献検索用を含めてパソコンは4台に増設、2013年には無線LANを設置するなど、順次利用環境を整えている。閲覧席は38席、コピー機は白黒・カラー両用1台である。図書館入口には資料の無断帯出防止のためブックディテクションシステムを設置している。

2) 情報検索

情報検索は、紙媒体の資料による文献調査から1990年代のCD-ROMによる文献検索を経て、2000年代以降のパソコンを使用したデータベースによる情報検索に至っている。

CD-ROMによる情報検索

- ・雑誌記事索引
- ・医学中央雑誌（1993年度より開始）



データベースによる情報検索

	データベース名	内容	利用者への提供状況
1	医中誌 Web イチュウシウェブ (医学中央雑誌)	国内で発行されている医学、歯学、薬学および看護学などの関連分野のデータベース。1977年から検索可能。	有料契約 DB。2003年1月～現在まで。2007年5月より医学部図書館（伊勢原）と共用。同時アクセス数制限ありだったが2019年度より「アクセスフリー」。
2	JDreamIII ジェイドリームス リー	国内で発行されている看護学、医学、薬学などに関係する文献が1981年から検索可能。医学・薬学予稿集全文データベースも検索できる。	有料契約 DB。同時アクセス数制限あり。2003年度に「JDream」で契約開始し、JDreamII→JDreamIIIと継続、2018年度（2019年3月末）に契約終了。
3	CiNii サイニイ	学協会誌、大学研究紀要、国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどが検索できる。医学・看護学計以外の論文検索にも使うことができる。	2006年3月～2016年度まで有料契約 DB。2017年度以降オープンアクセス（無料）。
4	最新看護索引 Web	日本看護協会看護教育センター図書館で編集している看護文献データベース。国内発行の看護・周辺領域の雑誌・紀要等の中から看護に有用と思われる文献が収録されている。1987年から検索可能。	有料契約 DB。同時アクセス数制限あり。学生は図書館の指定 PC のみで利用可。
5	系統別看護師国家 試験問題 Web	過去の問題、オリジナル模擬問題などの回答・解説を収録している。問題を解きながら重要事項をチェックできる自己学習に最適なデータベース。	有料契約 DB。同時アクセス数制限あり。学生は図書館の指定 PC のみで利用可。
6	メディカルオンラ イン	医学系雑誌・学会誌等に掲載された論文のフルテキストを検索することができる。提供されるフルテキストはすべて著作権処理済。	提供期間：2015年4月～2019年3月までの4年間。伊勢原図書館が契約する有料 DB だが2015年度からの4年間のみ医短図書館での利用許可あり。
7	Pub Med パブメド	米国国立医学図書館が提供する24時間無料で利用できる医療文献データベース。1948年以降に登録された文献データ約2,000万件が収録されている。	無料 DB。
8	TIME-OPAC タイムオパック 蔵書検索システム	東海大学付属図書館の蔵書検索システム 付属図書館（短大含む）の蔵書検索、他大学検索、論文検索等が検索できる。簡易検索と詳細検索がある。	無料。2013年度より本学図書館もこのシステムに加わり、図書・視聴覚・雑誌の蔵書データを登録済で検索可能。

※蔵書検索システムについて

2013年度に東海大学付属図書館の蔵書検索システムに参加するまで、本学の蔵書検索は手段が限られていた。雑誌についてはホームページに簡易雑誌目録としてリストを掲載していたが、図書・視聴覚については図書館内のパソコン2台のデスクトップに貼り付けた Excel ファイルの蔵書リストでのみ検索可能の状態であった。2013年度以降はインターネット上で TIME-OPAC により蔵書検索が可能になっている。

また、システム参加と蔵書データ登録により、利用者（学生及び教職員）の貸出手順も大幅に変更となった。参加前は個人用の紙媒体貸出カードと図書毎のブックカードに記入が必要だったが、参加後は学生証・身分証を利用し図書のバーコード読み取りによる貸出になり、手順と時間も短縮された。

3) 図書館統計

(1) 蔵書統計

① 総蔵書数（冊）

和書・洋書・視聴覚の総冊数（点数）の変遷

年度	和書	洋書	視聴覚	合計
1974	8,831			8,831
1975	9,741			9,741
1976	10,580			10,580
1977	11,411			11,411
1978	12,218			12,218
1979	13,101			13,101
1980	13,953			13,953
1981	14,922			14,922
1982	16,178			16,178
1983	15,701			15,701
1984	18,582			18,582
1985	19,527			19,527
1986	20,656			20,656
1987	22,166			22,166
1988	23,494			23,494
1989	25,051			25,051
1990	26,755			26,755
1991	28,489			28,489
1992	29,853			29,853
1993	31,137			31,137
1994	32,480			32,480
1995	33,804			33,804
1996	32,270	2,385	408	35,063
1997	33,087	2,426	509	36,022

年度	和書	洋書	視聴覚	合計
1998	34,059	2,437	596	37,092
1999	34,802	2,490	648	37,940
2000	35,403	2,510	682	38,595
2001	35,637	2,541	705	38,883
2002	36,959	2,550	751	40,260
2003	35,890	2,567	805	39,262
2004	36,256	2,591	833	39,680
2005	34,560	2,469	890	37,919
2006	34,470	2,466	932	37,868
2007	35,001	2,480	957	38,438
2008	34,419	2,400	1,000	37,819
2009	34,814	2,355	1,051	38,220
2010	35,085	2,356	1,115	38,556
2011	35,417	2,356	1,165	38,938
2012	35,934	2,356	1,204	39,494
2013	36,980	2,356	1,237	40,573
2014	37,736	2,356	1,297	41,389
2015	38,021	2,356	1,344	41,721
2016	38,626	2,364	1,372	42,362
2017	39,579	2,228	1,407	43,214
2018	39,666	2,228	1,440	43,334
2019	39,184	2,207	1,455	42,846
2020	39,321	2,207	1,456	42,984

※1995年度までは集計時に和書・洋書・視聴覚の区別なし

② 雑誌総点数（点）

1996年度より集計開始

年度	和雑誌	洋雑誌	合計
1996	175	38	213
1997	217	25	242
1998	420	22	442
1999	423	22	445
2000	425	22	447
2001	433	22	455
2002	455	22	477
2003	457	22	479
2004	446	33	479
2005	529	33	562
2006	529	33	562
2007	582	31	613
2008	621	29	650

年度	和雑誌	洋雑誌	合計
2009	639	29	668
2010	646	29	675
2011	646	30	676
2012	646	30	676
2013	646	30	676
2014	646	30	676
2015	654	30	684
2016	715	29	744
2017	722	29	751
2018	730	29	759
2019	736	29	765
2020	728	29	757

10. 後援会

1) 東海大学後援会の理念

東海大学の創設者松前重義博士は、学園の設立に当たり「ヒューマニズムを基調とする人類愛と世界平和の実現」という理念を、建学の精神として高らかにうたっている。そして同時に、それまでの大学がなし得なかった教育をめざした。その一つが大学とご父母の結束をはかる後援会組織であった。

大学は知識を授けるだけでなく、健全な思想を培い、健康な心身を養う人間形成の場でもあるという理想の教育をめざす立場から、こうした人道主義に基づく全人教育を推進するために、松前重義博士は大学と家庭の相互理解と協力関係が不可欠であるとし、そこに東海大学独自の個性と教育方針を打ち出し、学園の健全な発展を求めたのである。

このように、大学と家庭を結ぶ架け橋として設立された東海大学後援会は、大学と後援会が一体となって組織の充実を図り、今日、東海大学の発展に伴いますます重要な役割を担うようになっている。他大学にはこのような組織はなく、東海大学独自の教育システムとして、その大きな特徴の一つとなっている。

2) 医療技術短期大学後援会の設立

1974年の医療技術短期大学の設立に伴い、創設者松前重義博士は「東海大学後援会設立」の理念に沿うべき後援会組織を望まれ、ここに東海大学医療技術短期大学後援会が設立された。

医療技術短期大学後援会は在学生の保護者で組織され、医療技術短期大学との緊密な連携により相互の親睦を深め、本短大の発展と向上に寄与することを目的としている。

また、本短大と家庭を結ぶ架け橋となり、学生たちが充実した学生生活を送れるようにサポートすることを使命としている。

3) 後援会の活動状況

①入学式（4月）の参画と協賛

②定期総会（5月）の開催

- ・決算と活動報告、次年度予算と活動計画、役員改選等審議
- ・学生会・教職員・後援会との対話会
- ・指導教員による個別面談

③秋季中間報告会（9月）の開催

- ・講演会
- ・後援会活動状況報告
- ・指導教員による個別面談

④飛鷗祭（11月）の参画と協賛

- ・模擬店出店

⑤東海大学医学部附属4病院見学会（10月、3月）の開催（3月は同窓会と共催）

- ・病院内見学及び医療技術短期大学卒業の看護師との意見交換会

⑥学位授与式（3月）の参画と協賛

⑦謝恩会（3月）の参画と協賛

⑧新入生ガイダンス（3月）の参画

- ・新入生の保護者への後援会活動概要説明

⑨学生会諸活動への支援

11. 同窓会

1) 理念

同窓会は会員相互の親睦と向上を図り、母校の発展のために寄与することを目的とする。

閉学後は、母校の建学の精神を継承し、より一層、会員相互の親睦と向上を図ることを目的とする。

2) 設立

東海大学医療技術短期大学同窓会は、第二看護学科第1期生が卒業した1976年に発足した。同窓会の目的は、会員相互の親睦と向上を図り、母校の発展と社会の発展のために寄与することである。現在の会員数は5232名で、毎年5月に総会を開催し、講演会の実施や飛鷗祭への参加協力など、母校事業を支援する役割を担っている。また東海大学校友会に属し、校友会の運営・活動に参画している。

3) 活動状況

(1) 総会の開催

毎年5月の第4土曜日に開催している。役員改選、会則改正、活動報告、会計の収支報告等その他の議事を行う。また、学年を越えた会員相互の親睦を図っている。

(2) 同窓会誌『かもめ』の発行

年刊誌として毎年12月に発行し、2020年12月20日に第34号を発刊している。

内容は、同窓会の現状報告や活躍する卒業生の紹介、お世話になった先生方の近況報告などを東海大学新聞に掲載し会員に郵送している。

2021年度からは東海大学新聞と同窓会の分離方針のもと独自の発刊を考えている。

(3) ホームページの運営

ホームページ・フェイスブックを開設し、情報伝達方法の拡大等、会員間の情報共有の促進をめざしている。現状報告・活動内容・総会情報等の発信や会員住所変更案内等を発信している。

(4) 講演会の開催

看護の動向に合わせたテーマを選定し、年1回講演会を開催している。

(5) 在学生への支援

毎年、飛鷗祭時に学生会の依頼を受け交流会を開催している。

(6) 卒業生への記念品等の贈呈

後輩の卒業を祝福し、卒業生へ花束と記念品を贈呈している。

(7) 後援会との連携

毎年、病院見学会・交流会等を開催している。

4) 母校閉学後の活動について

同窓会は東海大学同窓会の科別同窓会として属し、活動を継続していく。

それに伴い、会則の変更、活動内容等の準備を実施していく。



12. 寄稿

1) 1979年度 第二看護学科 卒業 (80KS生) 須山 秀子

「80KS1120 須山秀子です (今でも学籍番号が言えます)」高校の衛生看護科を卒業し、家から近いという理由で医療短大を選びました。推薦で入学してしまったのに勉強もそこそこに、准看護師免許で夜勤のアルバイトに明け暮れた挙句、卒業が危ぶまれる始末でした。一時は同級生と一緒に卒業をあきらめたくらいでした。あの頃は、秋の国家試験があったので、今より切羽詰まっていなかったのでしょうか。先生方の御慈悲でなんとかギリギリ卒業できました。そんな私が付属病院に入職して、40年になりました。その半分以上を小児病棟に身を置かせていただきました。印象に残っている事は、2005年12月付属病院の引っ越しです。白血病で骨髄移植を待つ小学1年生の男児と娘が手をつないで、看護師に付き添われて古い病院から新しい病院に渡っていきました。マスクと帽子が欠かせなかったあの子達も二十歳を過ぎました。保護者の支援にも力を注ぎました。親の会(光の会)の活動を再開しました。院内学級の運営を支援しました。色々な行事が実施できるよう院内に働きかけました。5階の庭園を開放しての夏祭り、ジャイアンツのクリスマス会、病院内の見学ツアーでは、子供たちをドクターヘリに乗せてもらったり、前人未踏の屋上ヘリポートへ足を踏み入れたりしました。長期の入院後の復学支援カンファレンスを地域の学校の先生を招いて実施しました。「病気で入院してしまったけど、入院がその子のプラスの経験になってほしいな」「入院したからこそ出来たこと、感じられたことたくさん持って帰ってほしいな」「退院してから役に立つ入院生活になってほしいな」「入院しちゃったけど楽しかったと言わせたいな」そんな思いで色々な事をしました。時には、病院の廊下で寝てみたい。そんな小さな夢をかなえるために廊下にマットをひいて、一緒に廊下で大の字になったこともありました。やりたい事、こんな事してみたいを叶えてこられたのは、一緒に笑って協力してくれたたくさんの同僚や後輩がいたからでした。定年を間近に思う事は、今度は、後輩のために何かしたいなということ。例えば病児保育のお手伝い、例えば患者さんの見守りなどなど。第二看護学科なので、医療短大で学んだ期間は、たったの2年間でした。それでも今思うと充実していて、看護師としての今の自分の根幹を造ってもらった場所でした。あれからどっぷり東海大学の建学の精神のもと、今では、建学の歌を口ずさんでいます。



医療技術短期大学同期の女子会は永遠

医療短大（一看）の受験の際、父親と一緒に愛媛の田舎から寝台列車に乗り、初めて神奈川県にきました。小田急線の「大根」駅を「だいこん」駅？と間違えたことや畑の中に東海大学湘南校舎があったことに驚いたのを今でも覚えています。

1 ゼミ担任は稲光先生、私たち2ゼミの担任は熊谷先生で、第一印象はとても素敵な都会的な女性でした。在籍中は本当にお世話になりました。

基礎実習の演習では山根先生に「清潔・不潔」を叩き込まれました。現代文明論では、講義場所まで広い大学構内を歩くのが大変だったのを記憶しています。

塾での一人暮らしは初めての経験で、夜遅くまで、一つの部屋に数人が集まって話し込み、あつという間に朝になり大慌てで授業の準備をする毎日でした。実習中には看護計画や実習記録など毎日記録に追われ、睡眠時間が1時間もなく、へろへろで実習を終えていました。本当に、実習が苦手でしたが、実習メンバーで共同研究に取り組み、体圧実験をしていたのがとても楽しい思い出です。

短大で驚いたことは、出身地近くで成績表を親に渡すということです。いつも藤村先生から渡されていました。

2年後には妹も医療短大（一看）に入り、姉妹揃って卒業後は付属病院に就職しました。私は助産師学校に進学したため、医短の同期は1年先輩となっていました。（私が就職した年はディズニールランドが開園した時です。）

短大時代の仲間とは今でも毎年女子会を開催しています。去年は、一緒に還暦祝いをする予定が、新型コロナウイルス感染のため会うことができませんでした。医短は閉学となりますが、医短の仲間女子会は継続していきます。



3) 1989年度 第一看護学科 卒業 (870KF 生) 関口 智子 (旧姓：齋藤)

数年前に、医短の同窓会の電話がありました。久しぶりに聞く友人の声は懐かしく、今でも現場で頑張っている様子を知り嬉しく思いました。今回、医短の思い出を色々考えましたが、やはり一番は「戴帽式」でしょうか。当時ナースキャップを付けた自分の姿に「絶対いい看護師になる。」と決意したことを覚えています。また、実習で、翌日実習に行くと受け持ち患者が死亡退院していて、看護師から「あの呼吸状態おかしいと思わなかったの？」ときつく言われたこと、母性実習で受け持ち褥婦から初乳を味見させて頂いたこと、中村先生や熊谷先生は怖いと噂されていたけれど、看護に対する熱意が感じられ実際は全く怖くなかったことなど、断片的ながら色々な場面が思い出されます。しかし、「医短」というワードで最も思い出に残っていることは、女子学塾での生活です。大きな荷物を抱え延々と続く東海大学の道をひたすら学塾を目指して早歩きしたことを今でも鮮明に覚えています。学塾での生活は、ある意味3年間の学習や経験よりも辛く楽しかった思い出です。素性の知れない者同士の生活は「人は人、価値観は皆違う」事を思い知らされ、毎日の円形食堂での食事は「疲れていても眠くても、寒くても時間までに行かなければ食を逃す、頑張るって行かねば。」という自主性を育み、起床後の朝礼や時間制限の入浴、21時の門限は「生活に計画性を持つ」トレーニングになりました。当時携帯電話はなく公衆電話は奪い合いでどう時間を確保するかも必死でした。試験前、皆遅くまで勉強します。偶然共同のトイレで出会うと「もう寝るよ。」と互いを牽制するやりとり。「簡単に相手の発言を鵜呑みにしてはいけない。」「自分よりももっと頑張っている人がいる。」ことを教えられました。親の有りがたみを痛感し、同じ目標を持つ仲間と励まし合い協力する大切さを学び得ました。閉学は残念ですが、時代の流れの中で仕方ないこととも思います。今でも医短卒の看護師に「私、医短卒。」と言うと、「一緒なんですね。」と反応があります。『医短卒』という一言で互いに親近感を感じられることはすごいことです。卒業生全員が医短の沢山の思い出を持って頑張っていることと思います。もう、東海大学の一本道を歩くことはなくなりますが、時々医短を思い出して初心に戻ろうと思います。お世話になった多くの教職員の方々に心から感謝いたします。



4) 1991年度 第二看護学科 卒業 (00KS 生) 反町 綾

45年の歴史に幕を閉じることになった母校、東海大学医療技術短期大学第二看護学科での学びは、2年間という短い時間のように感じられますが、私にとっては毎日が楽しくこれ以上ない2年間でした。通学に3路線を乗り継ぎ、2時間半かかりましたが、一度も嫌だと思ったことはありませんでした。学校での友人たちとの語らいは、何よりも幸福感で満ち足りていました。そして、病院実習が始まると、当時出来たばかりのりんどう寮で生活しました。実習では悩みと迷いの連続に涙する場面もありましたが、そんな時、心をくみ取り、何も言わずにただそばにいてくれた友人を思い出すとき、これこそ人間愛に通じる看護師という姿を、まだ学生の立場であったその友に垣間見た瞬間であったとしみじみ思い出します。

そして今、私と同じ道を歩み、医療短大で学ぶ娘の姿を親としてそばで見えています。なかでも、2週間のデンマーク研修に参加させていただいた貴重な経験は、帰国した娘と接する中で、看護観につながる多くの学びとなり、看護師になるという目標に向かう仲間との絆を深めたものだったと感じました。それは、先生方のご尽力と、高度な医療と福祉を誇るデンマーク看護を範とした医療短大の開学以来の歴史に培われたものであろうかと思えます。

昨年から世界を脅かしている新型コロナウイルス感染症という未知なる脅威との闘いの最前線にいる私たちは、苦しむ人々のため、創立者松前先生の教育方針である温かい看護のできる人間性豊かな看護師であり続け、医療短大の教育理念でもあるその信念と行動により、人類の平和に貢献できるよう一致団結しています。

最後になりますが、この45年間で5千人を超える卒業生を送り出し、これまで医療短大を支えてこられた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。



医療技術短期大学の思い出と閉学にあたっての想い

卒業して 20 年余りの月日が流れました。これまで看護師としての歩みの中で、医療短大への入学は、私にとって運命の転機であったように感じるがありました。母校の閉学にあたり、思い出を振り返りながら、学び舎に思いを馳せたいと思います。

様々な記憶が思い起こされる中で、女子学塾での生活と病院実習は、特別な感情が湧いてきます。学塾の生活は、早朝清掃から始まり、円形食堂での規則正しい食事、厳格な門限、夜の公衆電話待ちの行列など、厳しくも充実した愛おしい日々でした。テスト前は皆で睡魔と戦い徹夜で勉強しました。テストが終わった後の屋上での花火は格別で、つかの間の開放感を味わいました。現代文明論の講義に向かうキャンパス内の並木道。友人と並んで歩いた季節ごとの心地良さが今も甦ります。飛鷗祭で大盛況だった豚汁の模擬店。卒業後、後輩達が受け継いでくれている様子は、懐かしさと同時にとても嬉しい光景でした。そして、病院実習は緊張とプレッシャーとの闘いでしたが、担当患者さん、臨床指導者、指導教員の先生方、そしてグループの仲間のことを忘れることはありません。嬉しかったのは、患者さんの情報をよく捉えていると看護師から認めてもらったこと。苦しかったのは、大切な情報を看護に繋げることができなかったことです。

卒業が決まり、配属先が ICU に決まったことを不安がる私に、恩師は「自分らしさを大切に看護していいのよ」と、力強く背中を押してくれました。その言葉は、やがて私の指導観の大きな柱となりました。その後も手術室・外来・急性期・慢性期病棟と、病院や配属部署が移る中で、変わることなく私の看護観の根底にあったのは、総長の示した教育方針でした。母校はなくなっても、「温かい看護のできる人間性豊かな看護師」。この理念を臨床で、そして後輩達に継承していきたいと思えます。

最期に、母校の閉学に際し、寂しさと同時に改めてこれまでの出会いと絆が、喜びの時も困難に向かう時も共にあったことに心温められ、このような機会を頂いたことに、心から感謝致します。



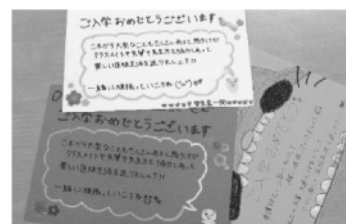
6) 1998年度 第二看護学科 卒業 (70KS 生) 廣川 和美 (旧姓: 榎田)

バレーボール部で支えられた大切な仲間との出会い

私は、愛知の衛生看護科を経て医短にやってきました。親元を離れて生活することに不安が大きく、右も左もわからなかった18歳の私にとって、「バレーボール部」での活動は一番の思い出です。同級生とは寮が一緒という事もあり、意気投合するまであっという間でした。沢山笑って、沢山泣いて、時には喧嘩もすることもありました。しかし、部活動だけではなく、辛い実習の時も、テスト勉強の時も、いつも仲間がそばにいて心強い居場所がそこにはありました。また、監督である今は亡き「友さん」は、時に優しく、時に厳しく、一人一人の事をいつも思い、温かく指導してくださっていました。「友さん」を慕って、医短を卒業された先輩方が、自然と練習に集まってくるような雰囲気があり、新入生から、先輩方に関わっていただいていた。部活の練習は、筋肉痛で何日も動けないくらいのハードな練習もありました。大会ではなかなか勝つ事はできませんでしたが、みんなで目標をもち、互いに声を掛け合いました。このチームワークの大切さは、看護師にとって重要なスキルでもあります。さらには、先輩方から励まされ、勇気づけられ、このような人と人との関わりが、看護師の夢に向かって進む私にとって、大きな支えとなっていたと思います。

現在は、愛知県に転居をし、町のクリニックで看護師として働いています。赤ちゃんから、高齢の方まで幅広く来院されます。「ここ(クリニック)へ来たらあなたがいるから」そんなふうに、安心感をもっていただけるように、一人の看護師として、患者さんに寄り添い関わりをもっていたらと思っています。

閉校となってしまうのは、大変寂しい気持ちですが、看護師として人生に大切な2年を歩ませていただいたことに感謝し、閉校に寄せる言葉といたします。ありがとうございました。



医療技術短期大学閉校にあたって

東京都板橋区にある自宅から医療技術短期大学までは、距離にして73km、時間にして片道2時間半以上かかりました。今思えばこれだけの距離をよく毎日通学していたなあと我ながら感心します。そして、東海大学前駅から医療技術短期大学まで20分の距離。なぜあんな辺境の地に校舎を建てたのかいまだに不思議に思います。

私の学生時代はひどいもので、毎日バイトに明け暮れ朝寝坊、2年次以降1限の授業に出た記憶はほとんどありません。みんなが登校している横でバイトのチラシを配って見送っていました。そんな毎日を過ごしていたので、2年の前期の成績は学年84人中84番、進級すら危ういと副担任の横島先生に警告を受ける始末でした。3年次の夏休みも先生方に補習を開いていただくなど多大なご迷惑とご心配をおかけしたことと思います。当時の友人にも授業のノートをコピーさせてもらったり、テストの要点を教えてもらったり、一緒に進級できるようにと励ましてくれました。彼女たちの支えがなければ、今こうして看護師として働いていなかったと思うと感謝しかありません。あの時の仲間が今どのくらい東海大の付属病院に勤めているかは分かりませんが、改めて感謝を伝えたいと思います。みんな、本当にありがとう！！

模試の結果を含め私の学年順位が70番台になることは一度もなく、常に下位争いを繰り返していましたが、臨床実習はとても楽しかったことを覚えています。特に浜田ハイツで4週間過ごした大磯病院での成人看護学実習は、課題を実習時間内に終え、みんなでヤオマサに買い出しに行き夕食を作り、夜中までゲーム三昧。時には平塚の七夕祭りに行ったり大磯の海で花火をしたりと楽しいことづくしでした。

こうして書かせてもらおうと、記憶は鮮明ではないですが、たくさんの思い出がよみがえってきて懐かしく思います。こんなわたしでも看護師を続けているので、学生のみなさんも頑張っって良い看護師を目指してください！！



8) 2013 年度 看護学科 卒業 (11KF 生) 吉田 愛

私は付属浦安高等学校から医療技術短期大学に 2011 年 4 月に入学しました。3 月に東日本大震災があり湘南校舎全体での入学式は中止となりましたが医療技術短期大学生のみの入学式が行われ、新しいスーツに袖を通し少し緊張しながら入学式に出席した記憶があります。付属生だったので高等学校からの友人もおり知っている人が全くいないという環境ではありませんでした、千葉県にある実家から初めて離れ東海大学前駅近くにアパートを借りて 1 人暮らしを始めることもあり入学当初は期待と不安で胸が一杯でした。入学当初は付属生の友人と行動を共にすることが多かったものの授業などで外部生とも話す機会が増え、今でも仲良くしている友人が沢山出来ました。

在学中で特に思い出深い体験は 1 年生の夏に参加したデンマーク研修です。約 2 週間の短期研修でしたがデンマークの看護学生と一緒に授業を受け、実際にデンマークの病院や施設を見学し実際に働かされている日本人の方にお話を伺うことも出来ました。まだ 1 年生であったため日本での看護実習も受けたことがなかった私にとっては全てが新鮮で驚きの連続であり、中でも訪問看護に同行させて頂いた際に訪問先の患者さんが亡くなっている場面に出会った体験は衝撃的であり今でもとても鮮明に覚えています。英語でのコミュニケーションという慣れない環境と初めて家族以外の看取りの場面に立ち会うという体験はもちろん初めてであり、私はどうしたら良いのだろうと戸惑いましたが同行した看護師さんがまず真っ先に患者さんのもとへ行き声をかけタッチングをして、その後にご家族とお話をされ背中をさすっている様子を見て看取りの場面での看護師の姿を直接目で見て学ばせて頂くことが出来ました。実際にその時の私は看護師さんの行動をただ見ていることしか出来なかったのですが今振り返ってみると私の看護の原点の 1 つとなる大きな出来事だったと感じます。他にも 3 年生での実習漬けの日々や国家試験前の勉強を先生方や友人たちと協力しながら乗り越えたこと、卒業後も実習で病棟に来られた先生方が声をかけて下さったことなどここには書ききれないほどの思い出が医療技術短期大学には詰まっています。閉校してしまうことは非常に残念ですが、思い出や学ばせて頂いたことは私の中にずっと残り続けておりこれからも大事にしていきたいです。今まで本当にありがとうございました。



9) 2018年度 看護学科 卒業（16KF生） 高橋 理佳

医療技術短期大学が閉学になると聞いた時、本当に寂しく悲しい気持ちになりました。卒業してから約二年が経ち、八王子病院の看護師として働いています。働いている今も思うことは医短で学べて良かったということです。

人生で一番濃く思い出深いのは医短で過ごした三年間でした。一番勉強し、一番文字を書き、一番色々な体験ができた三年間です。思い返してみると、毎日の授業に課題に実習、行事と色々なことがありました。クラスの皆と毎日授業と課題に追われていた日々が懐かしいです。皆で課題が十個以上も溜まっていると悲鳴を上げながらも一緒に頑張っていました。テスト前には1人暮らしの友人の家で集まり勉強をしていましたが、話に花が咲いてしまい明け方に焦って暗記をしていたりしました。テストと課題と記録のない学生生活なら戻りたいです。私は在学中、模範的な生徒とは言えず先生やクラスメイトにたくさん助けられました。眠気で意識のない授業なんていうのもしばしば・・・。「先生、すみません。今、看護師頑張ってます。」学生生活を思い出していたら、先生方にとっても会いたくなりました。「ちゃんとやっています！」と報告したいです。

私の中での一番の思い出は大学の子とお酒を飲んでいた時間です。三年生になってから、実習で他のクラスの子との交流が深まりお酒を飲める子でよく集まっていました。ここでは話すことのできないような思い出もたくさんありますが、今でも働く病院が違っても集まっていました。たまに集まって馬鹿なことを話していても、なんだかんだで看護の話をしてるところをみると、やっぱり看護師だなと思います。現在はコロナの関係で会うことは難しいですが、それぞれの場所で皆んな頑張っていると思うと私も頑張れます。大学の友人が職場の同期になるという環境は特殊ですが、仲間が沢山いて心強いので本当に良かったなと思います。大学の友人は一生ものの友人になりました。友人に出会わせてもらったことが学生生活一番の宝物です。



10) 東海大学医療技術短期大学同窓会 藤井 幸子 会長



医療短大閉学にあたって

医療短大同窓会は昭和 51 年(西暦 1976 年)に創立されました。2021 年度で 45 周年を迎え、創立 50 周年に向けてのイベントを意識していた矢先の閉学決定の連絡に何ともいえない気持ちです。私は初代松前重義先生より、建学の精神を看護師育成に注ぐという熱い思いを聞いて育った第 4 期生です。学校に訪れることもあり、大きな手で握手したことが昨日のように思い出されます。又当時は今では考えられない素晴らしい先生方の恵まれた環境でのびのびと看護師として育てられました。在学中は勉強した記憶はありません。ただただ楽しく看護を学びました。看護って何だろうと友とともに語り続けた日々を懐かしく思います。そして皆の熱い思いは形にできることも学びました。独自に飛鷗祭を立ち上げた時の感動は今でも忘れられません。教員の方々、後援会の方々等々のサポートは私たちの夢見る道を整備してくれました。ここが医療短大の誇れるところです。あきらめなければ思いは叶う。この言葉は今でも私の礎になっています。開校当初、医療短大は短大での看護教育の先駆けでした。そして全国の短大が閉校していくなか、いつかは母校が閉じる時がくることは覚悟していました。母校が無くなることは悲しいことですが、私たち同窓生は母校で培ってきた精神を実践で生かし伝授していく課題があります。沢山の同窓生がいろいろな分野で活躍をされています。心強いことです。同窓会は今後も活動を続け、会員の親睦と同じ精神で看護を語りあえる場として活動を続けていきたいと考えています。新たな同窓会のあり方も同窓生と共に考えていければと思っています。そして閉校後は東海大学同窓会への編入を予定しています。建学の精神をもった多学部同窓生との交流はより、広い知見や刺激をもらえ新たな知見も期待をしています。

11) 東海大学医学部附属病院 横田 弘子 副院長・看護部長・看護師キャリア支援センター長
(1980年度第一看護学科卒業)



医療技術短期大学での学び

私は、新潟県佐渡市出身で医療技術短期大学に進学しました。当時私立の看護短期大学は少なく、当校は教員人も著名な方々がおられ、看護だけでなく東海大学の総合大学としての教育を受けることができました。

3年間の中で今も忘れられない授業と実習でのエピソードがあります。

授業は「保健学概論」担当は井上幸子先生で、1年生の前期に「健康の概念」をグループワークしたことです。「交通事故で片足を切断した方は健康といえるか否か？」のテーマでした。「健康である」「健康ではない」と考える理由を討論するディベートです。

1年生のつたない考えではありましたが、健康は「身体的」「社会的」「心理的」の視点で考えることを学び、これから学ぶ看護の世界の奥深さにわくわくしたことを覚えています。

実習でのエピソードは基礎Ⅰ実習での出来事です。指導教員は山根信子先生でした。

1週間の実習でしたが、患者さんに拒否され看護ケアができないまま日々が過ぎていきました。実習最終日に何かできないかと考え、リハビリテーション後の昼食の際、「手を洗うこと」を提案させていただきました。通常はおしぼりで手をふき食事の流れでしたが、車いすや平行棒での訓練後は手が汚れます。「横田さんは食事の時おしぼりで手をふきますか？」と山根先生に聞かれたことをとてもよく覚えています。

学生自ら考え気づかせる質問ですね。拒否していた患者さんに「洗面所で手をあらいませんか？」と声をかけたところ、患者さんの表情が変わり、車いすのまま洗面所で手を洗い昼食の介助をさせていただきました。「患者さんに必要な看護は受け入れられる」という経験です。今も行き詰ったときや困難な状況になったとき、この時の経験を思い出します。

医療技術短期大学を卒業し40年が過ぎました。仕事を続ける看護の基本は母校での学びであり、今も色あせることはありません。

現在は、管理職となっていますが、看護のリーダーとして看護の視点を忘れることなく東海大学医学部附属病院を訪れる患者さんや学生そして一緒に働く看護師に関わっていきたいと思います。

最後に、母校が閉校になることは大変残念ですが、多くの卒業生が看護の現場で活躍できるよう、互いに支援しあえる同窓生でありたいと思っています。



12) 東海大学ヨーロッパ学術センター ヤコブ・スキュット・イエンセン 副所長



医療短大へのメッセージ

東海大学医療技術短期大学は開学直後からデンマーク看護研修を実施し、これまで45年間、毎年デンマークへ学生を連れてきてくれました。この研修は、学園の源流であるデンマークについての学びだけではなく、日本とデンマークの文化交流および関係構築にも大きく貢献していることと思います。また、この研修を通してヨーロッパ学術センターとしてのミッションを遂行することができ、更には貴重なネットワークの構築も図ることができ大変ありがたく思っております。

私が初めてデンマーク看護研修のサポートを行ったのは2009年の夏でした。最後の研修となった2019年まで、11回に渡り学生との交流を重ねてきました。デンマークでの研修に同行しながら、学生の学ぶ姿勢や努力、チームワーク、訪問先の方との関わり方などを拝見することができ、私にとっても非常に貴重な経験となりました。私の記憶にはたくさんの出会いや心に残るエピソードが溢れており、皆さんと交流することで、日本と東海大学をさらに理解できるようになりました。この機会をお借りし、改めて医療技術短期大学の皆様に御礼を申し上げます。

この度の閉学にあたり、医療技術短期大学が蓄積してきた国際交流の成果が引き継がれ、今後の東海大学とデンマークのさらなる関係構築に寄与していくことを願っています。これまで出会ってきた多くの学生は間違いなく日本の医療社会のどこかで活躍していることと思い、大変嬉しい気持ちでいっぱいです。医療技術短期大学の卒業生と先生方の更なるご活躍をお祈りします。

ありがとうございました！



閉校にあたり元教員として徒然なるままに想いをつづる



全世界を襲った前例のない新型コロナウイルスの感染拡大により、ライフスタイルに大きな変化が生じた 2020 年。現在も収束が見えないなか、パンデミックの脅威のリスクが高い教育と医療に主体を置く東海大学医療技術短期大学の（以下医短）の 1 年間は、教育事業はもちろん通常のカリキュラム・大学生生活、イベントはことごとく中止、延期の事態に陥ったであろう。教育内容もオンラインとなる中、テレワーク可能な教科と不可能教科の狭間で教職員も学生も焦り、実習病院の指導者共に穏やかではなくその苦悩は計りしれない。

殊に、国家資格取得には実習基準のクリアが必須であるが、人との接触が欠かせない看護教育の現場ではそのジレンマはいかばかりかと思う。しかし、医短の教職員・学生はかつて経験したことのない非常事態の中で、従来の教育方法は通用しないと悟り、多くの工夫で困難を乗り越えてきたと確信している。学生にとって短縮・選択を余儀なくされたであろう貴重な臨床実習の場で困難と闘うスタッフの姿は何にも代えがたい模範、貴重な教科書になったことと思う。

物事は必ずしも自分の都合のよいようにはならないからどんな場合でも最善を尽くすこと、自分の夢は決してあきらめず、自分自身を信頼し自分の判断を信じるのが大切である。今、コロナ禍の中であって人々が、医療や科学に対しその重要性、尊さを実感している時ではないだろうか。それゆえ、看護学を学ぶ学生には建学の精神を支えとして困難を乗り越え、残りの時間を有意義に学びぬいていただきたいと願う。とはいえ、この状況は誰かに責任があるわけではないが、閉学を目前に「有終の美」をと計画した事柄がことごとく中止・縮小になったことを思うとき、教職員・学生・卒業生はもちろん、32 年間医短の教育にかかわった者として悔やまれてならない。

東海大学の教育理念と医短の教育の歴史を背負った卒業生には変化に対応できる技量が備わっていると確信している。自信をもって心から人を愛し、他者のために心を砕き、自分自身も大事にしながらこれからの看護界を牽引していただきたい。ますます厳しくなる看護界で免許の重みをかみしめながら、楽ではないが、楽しい職業生活を送っていただきたい。臨床は、免許取得者が味わうことのできる最良の舞台と信じ、その舞台で輝き続けてほしいと老婆心ながら願う。

教員の方々には、教育現場が変わったとしても希望を持って入学してきた学生一人一人に看護の厳しさと楽しさを見せていただきたい。看護教育の原点は、教師や臨床指導者が学ぶ者にその姿を見せることだと初代学部長内田靖子教授から学んだ。教師は学生の鏡、学生が未知なるものに対してあくことのない興味と関心を持ち続け、選んだ道に誇りと責任が持てるよう共に学んでいただきたい。

年を重ねるにつれて薄れて行く記憶、アルバムを開くとそこには忘れかけていたあのころがあり、友人や恩師がいる。元気ですか？また会いましょうね。ページをめくる度にみんな元気であるかなあ、また会いたいな、そんな気持ちになった時間となった。

退職後 10 年経過した今、東海大学医療技術短期大学は、改めて看護学の基礎教育とは何かを学ばせていただいた貴重な時間であったと思い返すことができ、貴重な紙面をお借りできたことに感謝申し上げます。

14) 東海大学医療技術短期大学 吉田 礼子 元学科主任 (2007. 4. 1～2013. 3. 31)



桜と樺と医療短大の思い出

満開の桜のもとでの入学式から、医療短大での十年あまりの教員生活は始まりました。自分自身は横浜からの遠距離車通勤で正門側から登校していましたが、看護学生はいつも大きなバックをしょって北門から大学構内を抜け 30 分近く歩いて通っていると聞き、大いに感心したものです。メインストリートにはのびのびと樺が枝を伸ばしていました。

医療短大は、創立者の強い意向を反映して、デンマークの教育から多くの影響を受けており、創立以来毎年欠けることなく続くデンマーク看護研修はその典型でした。医療短大の看護として大事にされてきた「その人らしさを大切にする看護」は、最期までその人らしく生きることを支えるという看護の基本的精神はもちろんのこと、デンマークの地域や高齢者ケアにもその源流を見ることができるようだと思います。創立 30 周年を境に一方通行だった研修を、隔年で研修団を受け入れる双方向に発展させられたのは、在職中のうれしいことでした。研修団が来日されるのも毎年桜の咲き誇る季節でした。

また、医療短大の飛鶴祭には、合唱コンクールというちょっとレトロな呼び物があり、初めは驚いたものの、クラスごとの団結力を示すその工夫には笑いと涙を誘われ毎年の楽しみになりました。そのうち業者などの協力を得てさらに華やかなダンス大会も行われるに至り、そのパワーに圧倒されたものです。

卒業生の多くが東海大学付属病院に残る中、2 教育機関と 4 病院が協力して東海大学看護研究会を立ち上げることができたことも大きな思い出の一つです。退職後に参加させていただいた学術集会では、多くの卒業生の活躍を見ることができうれしい限りでした。

40 年以上の歴史を経て、卒業生は 5000 名を越えました。時代の流れの中で、医療短大は役割を終え閉校となりますが、医短生のパワーとその理念は樺のように卒業生の心の中に深く静かに根を張っていることでしょう。閉校後も、その皆様の伸びやかな活躍と健康、そして幸福をお祈りします。





2017年東海大学看護研究会学術集会の思い出

私は、東海大学医療技術短期大学（以下、医短）に15年間勤務させていただきました。その中で印象深いのは、2017年9月に東海大学看護研究会学術集会をデンマークのVIAユニバーシティカレッジのベギーテ・ヒンスガウル先生をお迎えして【その人らしさを大切にする看護の創造－『幸せの国』デンマークの看護に学ぶ－】というテーマで開催したことです。

東海大学とデンマークの交流は、創設者松前重義博士がデンマークの教育制度等に共鳴してデンマークを訪問したことから始まり、1943年には東海大学の前身、航空科学専門学校を開校され、1974年には医短が開学されました。開学前に設立準備室の教員の方々はデンマークを訪問して看護や医療及び社会福祉等を視察され、医短の教育内容を作り上げられました。以降、デンマーク看護研修は途切れることなく2019年度で45年目を迎えるに至りました。

2017年は東海大学75周年記念の年であり、デンマークと日本の国交樹立150周年の年でした。学術集会大会長であった私は、医短とデンマークとの長年の交流を生かした企画を考え、学術集会委員の方々と話し合い実現しました。2017年5月には学術集会に先立って、医短教員及び学術集会委員がデンマークの看護教員や看護師の方々をお招きし、デンマークの東海大学ヨーロッパ学術センターにおいてシンポジウムを開催しました。毎年、学生を引率してデンマークを訪れていた私たち教員ですが、デンマークの教員の方々と直接お話しする機会を持ったのは初めてで、互いに看護や看護教育について語り、交流を深めました。この内容は学術集会当日、映像とパネルで紹介しました。

学術集会は、東海大学4病院と2教育機関の300名あまりの方々が参加され、看護について熱心に語り合いました。この大会を通じて、デンマークでも日本でも看護の原点は同じであり、患者や家族のために心を込めて支援していくことが看護の第一歩であると確認できました。





25年間の Precious memories に感謝を込めて

2018年度より閉学に至るまで、本学最後の学科主任を務めさせていただきました。私は、1997年4月に本学に着任後、ちょうど25年間を本学で過ごしました。その間、2500人以上の学生の皆さんと関わり、専門の「母性看護学領域の授業・演習・実習」や「生命と倫理(科目)」を通して、「性・生殖」そして「いのち」に真摯に向き合うことの意味や大切さを伝えてきました。特に、母性看護学実習では、妊婦さん、産婦さん、褥婦さんとその赤ちゃん、NICUにいる赤ちゃんという多くの対象と、たった2週間の実習の中で出会い、出産に立ちあうという貴重な機会を通して、自らの「いのち」や「母性」「倫理観」などに向き合いながら、看護学生として、そして一人の女性・男性として成長していく皆さんの姿に、私自身が沢山励まされました。

2017年度の終わり頃、本学が閉学することが決まり、大変ショックであり残念な気持ちでしたが、その時の在學生やその後入学してくる2018年度・2019年度入學生を最後までしっかりと育て上げることを、教職員一同誓いました。

しかしながら、2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症パンデミックの問題は、大学での教育にも大きな影響をもたらしました。開学以来はじめての臨床実習ができない状況に陥り、2020年度の3年次の臨床実習は、総時間の半分を学内演習で代替するという苦渋の決断をしました。また、オンデマンド教材の活用やZoomなどを用いた遠隔でのLive授業なども実施し、慣れない教材づくりや刻々と変化する感染防止対策への対応に苦悩しながらも、教職員が一丸となって取り組みました。これらは、本学だけでなく全国の看護教育機関が直面した問題でしたが、幸いにも本学は東海大学医学部付属病院群の全面的な協力をはじめとして、臨地実習を受け入れて下さった多くの諸施設の協力を得て、貴重な臨地実習も実施できました。そして、2022年3月、最後の学生が無事に卒業を迎え、総数5,397名の卒業生となりました。

この48年間に本学の教育に関わられた歴代の教職員の皆様、後援会の皆様をはじめとして本学の教育・運営に関わられたすべての関係諸機関の皆様に深く感謝申し上げます。皆様のご支援・ご協力のおかげで、本学の創立者である松前重義先生が掲げられた「**温かい看護のできる人間性豊かな看護師を育てる**」という本学の教育方針に従い、多くの優秀な看護師を世に送り出すことができました。

卒業生の皆様、通称「医短」と呼んで愛して下さった東海大学医療技術短期大学で学んだことは、皆さまの看護師としてのアイデンティティの根幹をなしていると思います。どうぞそのアイデンティティを大切に、皆様が本学で学んだことに自信と誇りをもって、今後ともご活躍下さい。

末筆ながら、最後の学科主任としてご挨拶の機会をいただいたことに感謝いたします。私自身にとってもかけがえのない25年間でした。多くの皆様との出会いと沢山の経験が全てつまったPrecious memoriesを心の糧にして、これからも大切にしたいと思います。

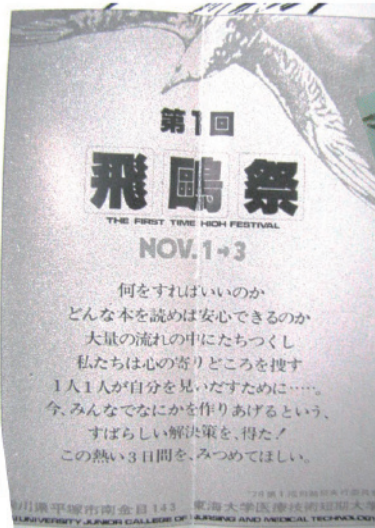
～思い出の風景～

～思い出の風景～

【戴帽式】



【飛鷗祭】



【授業演習実習】



【国家試験受験・学位授与式】



ピクピク合格



【創立 30 週周年記念式典】



【東海大学ヨーロッパ学術センター (TUEC)】



【デンマーク研修 研修風景】



【2019年度 最後のサンクスパーティ】



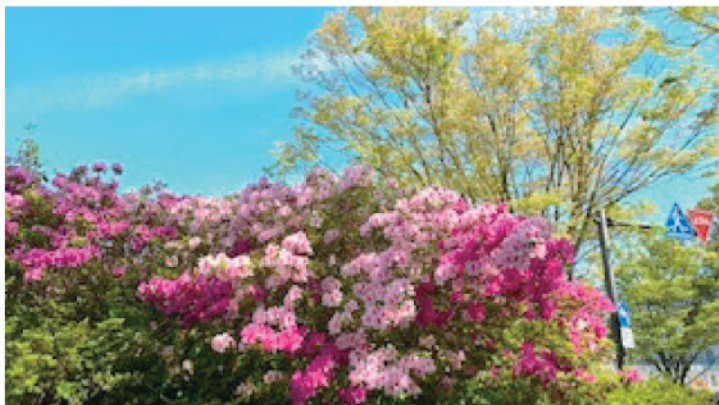
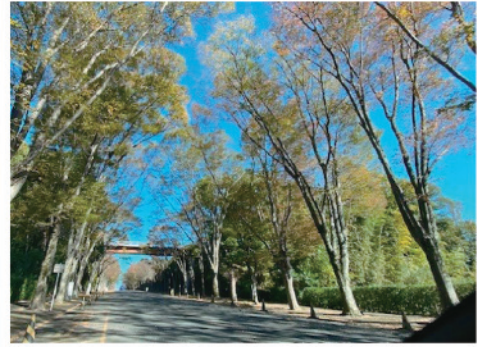
【飛鳥祭での発表】



【デンマークからの研修団】



【キャンパスの風景】



編集後記

1974年に開学した本学は、48年間の歴史を刻み、その歴史を閉じることとなりました。

2017年度末に告げられた「2022年3月閉学」の決定から4年間、常にどのように閉学を迎えることができるのかが念頭にありました。本学の初代学長松前重義博士が、篤い想いと理想をもって設立した本学において、多くの方々が積み上げられた歴史を大切にしながら、その軌跡をどのように残すのかが、大きなミッションであったと思います。

しかし、2020年から始まったCOVID-19の世界的なパンデミックは、これまで大切にしてきた本学の教育の形さえ、最後まで貫くことを許してくれませんでした。そんな中でも、閉学を知った上で本学を選び、入学した最後の学生たちと関わる中で、「ピンチをチャンスにしていこう」と、たびたび声をかけながら今日に至りました。

本記念誌をまとめる中で、創成期の教職員の皆様の想い、それらの襍を繋げてきた多くの諸先生方や職員の皆様の想い、そして巣立っていった5,300名以上の卒業生の想いに心を寄せながら、本学の歴史のページの中に自分たちが確実に存在していたことに、誇りと感謝の念を抱くことができました。

また、本学が近年大切に築いてきた教職協働による組織としての一体感なくしては、本記念誌も作成には至りませんでした。あらためて、学生に関わることを心から大切に教育を実践してくれた教員の皆様、常に目立たない場所から大学の運営において重要な役割を果たしてくれた職員の皆様に感謝致します。

東海大学医療技術短期大学の歴史はここで幕引きされますが、東海大学における看護教育は、この後も医学部看護学科において継続され発展していくことが期待されます。

最後に、本記念誌を作成するにあたり、資料を提供して下さった関係諸機関の皆様、寄稿して下さった皆様にあらためて深く感謝申し上げます。皆様のご健勝を祈りながら、編集後記といたします。

2021年度閉学対策委員会委員長

閉学記念誌編集責任者

望月 好子

各種証明書の交付および同窓会活動などについて

東海大学医療技術短期大学閉学後の成績証明書・卒業証明書などの各種証明書の発行および同窓会活動については下記のとおりとなります。

○証明書交付について

東海大学医療技術短期大学を卒業された方の成績証明書や卒業証明書など各種証明書の申請は、2022年4月1日より東海大学伊勢原キャンパスで取り扱います。申請方法の詳細については、伊勢原キャンパス（メディカルサイエンスカレッジオフィス（教学担当））にお問い合わせください。

【連絡先】

〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋 143 TEL:0463-93-1121（代）
東海大学伊勢原キャンパス メディカルサイエンスカレッジオフィス（教学担当）
証明書係
月～金／9:00～17:00、土／9:00～14:00

○同窓会について

東海大学医療技術短期大学同窓会は、2022年4月から東海大学同窓会の一員となります。今後は、本学に登録されている現住所に応じ、東海大学の各支部同窓会より活動のお知らせが届きます。今後も学園の一員として、各種行事に積極的に参加してください。

東海大学医療技術短期大学閉学記念誌

2022年2月22日発行

発行者 東海大学医療技術短期大学

編集 東海大学医療技術短期大学閉学対策委員会閉学記念誌小委員会

印刷所 サイトー印刷株式会社

静岡県静岡市清水区宮加三 742-1